

学生の確保の見通しを記載した書類

目次

1. 新設組織の概要	2
(1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	2
(2) 新設組織の特色	2
2. 人材需要の社会的な動向等	2
(1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	2
(2) 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	3
(3) 新設組織の主な学生募集地域	4
(4) 既設組織の定員充足の状況	5
3. 学生確保の見通し	8
(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	8
1) 既設組織における取組とその目標	8
2) 新設組織における取組とその目標	9
3) 当該取組の実績の分析に基づく，新設組織での入学者の見込み数	10
(2) 競合校の状況分析	10
1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性	10
2) 競合校の入学志願動向等	13
3) 新設組織において定員を充足できる根拠等	14
4) 学納金等の金額設定の理由	15
(3) 先行事例分析	17
(4) 学生確保に関するアンケート調査	17
(5) 人材需要に関するアンケート調査等	18
4. 新設組織の定員設定の理由	18

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
デザイン工学部	100	－	400	青森県八戸市大字妙字大開 88－1

(2) 新設組織の特色

新設組織は、既存の工学部工学科（5 コース）および感性デザイン学部感性デザイン学科において蓄積された工学・デザインの教育研究実績を基盤とする。文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の採択を契機として、本学の基本理念である「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、現代社会の緊要な課題である地球環境保護（グリーン分野）および社会効率化（デジタル分野）の発展を牽引する高度専門人材を育成することを目的とする。これら教育研究を強力に推進すべく、既存の 2 学部を再編・融合し、新たに「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部の 3 学部」を設置するものである。

デザイン工学部は、人間の感性と高度な技術を融合し、地域社会の課題を「新たな価値」へと転換する「感性デザイン」「建築デザイン」「国土デザイン」の 3 つのプログラムを展開する。単なる造形技術の修得に留まらず、人間心理や感性、地域の歴史・文化的特性を多角的に分析し、持続可能な「未来の生活空間・様式」を構想する能力を養う。デザインの基礎理論から、社会の潜在的ニーズを具体化する「デザイン思考」までを体系的に教授。地域住民の生活を豊かにし、地域の資源や社会インフラの維持保全、さらに新たな機能と価値を付加できる、実践的な高度専門人材を育成する。

名称：デザイン工学部

学位：学士（デザイン工学），学位の分野：工学

【既存組織】

名称：工学部工学科，入学定員：250 名，収容定員 1,000 名

名称：感性デザイン学部感性デザイン学科，入学定員：50 名，収容定員：200 名

所在地の概要：青森県八戸市大字妙字大開 88-1

新組織開設後の予定：学生募集停止

2. 人材需要の社会的な動向等

(1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

現代社会は、第 4 次産業革命の進展と脱炭素化という二大潮流（DX および GX）の中にあり、これまでの産業構造を抜本的に変革することが不可欠となっている。国が掲げる「経済財政運営と改革の基本方針」においても、成長分野を牽引する専門人材の不足が指摘されており、高等教育機関に対しては、単なる知識の伝達に留まらず、社会課題を具体的に解決し得る実務能力を備えた人材を世に送り出すことが強く期待されている。

全国的な動向として、成熟社会を迎えた今日、製品やサービス、あるいは住環境や公共空間には、単なる機能性だけでなく、感性に訴える価値や豊かな体験（UX）が求められている。デザインを経営戦略の核に据える「デザイン経営」が普及する中、「感性デザインプログラム」が担う人間中心の視点（デザイン思考）と、「建築デザインプログラム」および「国土デザインプログラム」が担う工学的な論理を融合させ、ミクロな製品からマクロな社会基盤までをトータルに構想できる人材は、次世代の産業競争力を支える存在として必要不可欠となっている。

また、北東北を中心とした地域的要請においても、人口減少やインフラの老朽化という深刻な課題に直面する中で、既存の地域資源に新たな価値を見出し、暮らしの質を向上させる構想力を持った人材への需要は極めて高い。地域の個性を活かしながら、「建築デザイン」による安全・快適な生活空間の創出と、「国土デザイン」による強靱で持続可能な社会基盤の構築、そしてそれらを繋ぎ人々の幸福に寄与させる「感性デザイン」の知見をもって未来を形作れる専門家は、地域社会の再構築（地域創生）において重要な鍵を握るものである。

デザイン工学部は、これら全国的・地域的な人材需要の動向に正面から応えるものである。激動する現代社会において、建築・土木といった確かな工学的基盤と、感性豊かなデザイン能力を三位一体となって兼ね備え、価値の再定義と社会実装を担う人材を育成・輩出することは、本学に課せられた極めて重要な社会的使命である。

(2) 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

・全国的な 18 歳人口の推移と進学動向

文部科学省の試算においても、2040 年における大学進学該当年齢人口の大幅な減少は「2040 年問題」として定義されており、高等教育機関には規模の適正化と教育の質的転換が厳格に求められている。

・地域的な 18 歳人口の急減と進学率の推移

【資料 1】「リクルート進学総研 マーケットリポート 2025（東北版）」に基づき、本学の主要な学生募集圏における入学対象人口の動向を分析する。

東北エリアおよび青森県における 18 歳人口の減少は、全国平均を大きく上回る速度で進行している。本学が所在する青森県の 18 歳人口は、2025 年の 10,307 人から 2037 年には 7,647 人へと、25.8%（2,660 人）の減少が予測されている。これは全国平均の減少率 16.8% を 9 ポイント上回る極めて深刻な推移である。東北エリア全体においても同期間に 25.3% の減少が見込まれており、地域的な入学対象人口の総数が大幅に収縮している状況は不可避である。

・大学進学志向の変容とニーズの分析

18 歳人口が減少する一方で、青森県内における大学進学志向は過去 10 年で顕著な伸長を見せており、これが本改組における志願者確保の蓋然性を裏付けている。

青森県の現役大学進学率は、2016 年の 36.3%から 2025 年には 48.5%へと、12.2 ポイントの大幅な上昇を記録した。これは東北平均（47.5%）を上回る数値であり、地域における

高等教育への期待と需要が極めて高いことを示唆している。また、短期大学への進学率が同期間で 5.4%から 3.6%へ低下している事実を鑑みれば、受験生のニーズがより高度かつ専門的な 4 年制大学教育へと明確に移行していることが読み取れる。

・改組による入学者確保の戦略的必然性

東北エリア全体の大学地元残留率は、2025 年時点で 35.8% (2016 年比 1.7 ポイント増)、青森県は 39.6% (2016 年比 2.3 ポイント増) と微増傾向にある。しかし、依然として若年層の広域流出は本地域の深刻な課題であり、特にクリエイティブな職種や高度な設計技術を志向する層の県外流出が顕著である。

大学進学志向が深化するなか、本学が「デジタル」「グリーン」と並び、「デザイン（デザイン工学部）」を核とした教育課程へ再編することは、極めて戦略的な意義を持つ。従来の「工学」の枠組みを、人間の感性と空間、そして国土という 3 つのスケールを横断する「デザイン工学」へと再定義することで、都市部の美大・工大志望層を地元へ繋ぎ止める強力な引力となる。

18 歳人口の減少という厳しい外部環境下においても、「4 年制大学志向の深化」を背景とした進学需要は堅調である。社会ニーズに直結した「目に見える価値」を創出する本改組は、志願者のマインドシェアを確実に獲得し、中長期的な入学者確保を実現する確かな布石となるものである。

・専門領域の融合による新規受験層の開拓

従来の建築・土木志望層に加え、プロダクトデザイン、サービスデザイン、ユニバーサルデザイン等を志向する「感性重視層」を新たに取り込む。「感性・建築・国土」の 3 プログラムを一つの学部を集約することで、文理の枠を超えたクリエイティブ志向の受験生層を開拓し、本学の選択肢を広域的な層へと拡大させる。

・地域再デザインを軸としたリカレント教育需要の創出

地域産業の構造変革や、老朽化するインフラの再整備、地方創生に向けた空間デザインの重要性が高まるなか、地場企業や自治体における現役実務者の再教育需要は急増している。デザイン工学部が提供する「技術に感性を実装する」実践的カリキュラムは、社会人の学び直し（リスキリング）に極めて親和性が高く、18 歳人口の枠を超えた多角的な入学対象層を創出するものである。

*添付データ：【資料 1】「リクルート進学総研 マーケットリポート 2025（東北版）」

(3) 新設組織の主な学生募集地域

【資料 2】(別紙 1) に示す通り、青森県内における私立大学全体の 2025 (令和 7) 年度入学者 (出身高校所在地別) の構成比を見ると、青森県内出身者が 83.0% と大半を占め、次いで岩手県 (6.9%)、秋田県 (5.0%) の順となっている。これに対し、本学の同年次入学者 (215 名) は、青森県内出身者が 78.14% (168 名) である一方、岩手県が 13.02% (28 名)、秋田県が 2.79% (6 名) となっている。東北 6 県出身者の合計は 96.74% に達し、特に北東北 3 県 (青森・岩手・秋田) で 93.90% を占めているのが特徴である。

本学の入学者実績を詳査すると、岩手県出身者が県内私大平均（6.9%）の約 1.9 倍にあたる 13.02%を占めており、地理的近接性や本学の教育資源に対する近隣県のニーズを背景として、県外からも安定的な入学者を確保している。

本学の主たる募集地域である北東北 3 県は、全国的にも人口減少と若年層の流出が喫緊の課題となっている。このような状況下において、本学の入学者構成が北東北 3 県で約 94%を占めている事実は、本学が地域における「高等教育の受け皿」としてのみならず、「地域人材の還流・定着」を担うハブとして機能していることを示している。

以上のデータから、本学は県内他大学と比較して岩手県等からの流入が顕著であり、北東北 3 県を中心とした広域的な募集基盤を有しているといえる。したがって、新設組織においても北東北 3 県を主たる学生募集地域として設定することは、過去の実績に照らして十分な妥当性がある。

本改組においては、この強固な募集基盤を礎とし、地域産業界や自治体との連携をさらに強化する。具体的には、地域課題を教育リソースとして活用する実践的なカリキュラムを通じて、高度な専門性と地域愛を兼ね備えた人材を育成する。

育成された人材を再び北東北の産業界へ輩出する「人材育成と供給」のサイクルを確立することは、停滞する地域活性化への直接的な寄与となり、ひいては地方私立大学としての不可欠な地域貢献を果たすものである。以上の観点から、本学が北東北 3 県を主たる募集地域として設定し、教育組織を改組することは、地域社会の持続可能性を担保する上で極めて高い妥当性と必要性を有している。

・添付データ：【資料 2】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）

（4）既設組織の定員充足の状況

【資料 3】（別紙 2 の 1）に示す通り、大学全体の収容定員 1,200 名に対し、在籍学生数は 818 名、充足率は 0.68（68%）に留まっている。この数値は、既存の「伝統的工学」および「感性デザイン」という枠組みが、現在の学生ニーズや社会情勢と乖離し、学生の定着および確保において課題を抱えていることを示唆している。

＊添付データ：【資料 3】既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2 の 1）

1) 工学部工学科の入学定員の充足率の状況（直近 5 年間）

【資料 3】（別紙 2 の 2-1）に示す通り、令和 3 年度には定員を上回る充足（1.04）を記録していたが、令和 5 年度（0.66）、令和 6 年度（0.60）と急激な低下を見せている。直近の令和 7 年度は 0.73 まで回復しているものの、5 ヶ年平均充足率は 0.79（79%）に留まっており、定員 250 名の維持が困難な状況であることが客観的な数値からも明らかである。

① 入試区分別の入学動向と課題

・総合型選抜（平均入学者：81 名 / 募集人員：49 名）

募集人員を大幅に上回る入学者を恒常的に確保しており、本学を第一志望とする層の受け皿として機能している。しかし、令和 3 年度（104 名）から令和 5 年度（57 名）にかけ

ては一時的に半数近くまで減少しており、年内入試層においても市場の影響を強く受けている。

・学校推薦型選抜（平均入学者：65 名 / 募集人員：67 名）

概ね募集人員に見合った入学者を安定して確保できている区分である。辞退者が極めて少なく、歩留まりが非常に高い点が特徴である。

・一般選抜および共通テスト利用入試（課題となる区分）

最も深刻な課題は年明け以降の選抜である。一般選抜は、令和 3 年度の 25 名から令和 6 年度には 6 名まで激減した（平均 17 名）。共通テスト利用は、令和 3 年度の 64 名から令和 6 年度以降は 20 名台（平均 35 名）まで低下している。

これらの区分は募集人員（一般 58 名、共テ 76 名）に対し充足率が著しく低い事実は、他大学との併願者が多い層において「本学を選ぶ理由」が弱まり、定員 250 名を充足させるための牽引力となっていないことを示している。

② 分析のまとめと改組の妥当性

過去 5 年間の志願データは、既存の「工学部（定員 250 名）」という広範な枠組みが、専門分化する現代の志願動向や多様な併願ニーズに対して乖離が生じていることを示唆している。特に、広範な工学全般を対象とする募集形態では、一般選抜・共通テスト利用入試における「後期選抜の志願者確保」が困難となっており、これが全体の定員充足率を押し下げる構造的な要因となっている。この現状を打破し、持続可能かつ強固な募集基盤を確立するため、以下の施策を断行する。

・「デザイン工学」を軸とした定員の最適化と専門性の明確化

画一的な 250 名の枠組みを解体し、進学需要調査において極めて高い関心が示された「デザイン工学」の領域を独立させる。「感性デザイン」「建築デザイン」「国土デザイン」という、出口（キャリア）が明確な 3 つのプログラムを編成し、各分野の定員を適正化することで、ミスマッチを解消し定員充足の確実性を高める。

・「第一志望層」を惹きつけるブランド力の再構築

総合型・推薦型選抜において本学を強く志望する層は、漠然とした「工学」ではなく、具体的な「デザイン」や「まちづくり」「ものづくり」への関心が高い。学問分野を「デザイン工学部」として明確にブランディングすることで、これら第一志望層のニーズに深く合致させるとともに、一般選抜層に対しても「工学技術を用いて社会をデザインする」という独自の付加価値を提示し、県内外のクリエイティブ志向層に対する強力な訴求力を持つ組織へと刷新する。

*添付データ：【資料 3】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2 の 2-1）

2) 感性デザイン学部感性デザイン学科の入学定員の充足率の状況（直近 5 年間）

【資料 3】（別紙 2 の 2-2）に示す通り、5 ヶ年平均充足率は 0.75（75%）である。令和 3 年度には定員を上回る充足（1.06）を達成していたが、翌令和 4 年度以降は定員割れの状態が継続している。特に令和 5 年度には充足率 0.52（入学者 26 名）まで落ち込んでおり、小

規模組織ゆえに志願者の僅かな変動が充足率に深刻な影響を及ぼす不安定な状況が顕著となっている。

① 入試区分別の入学動向と課題

・総合型選抜および学校推薦型選抜（年内入試への依存）

入学者全体の平均約 77%が年内入試によるものであり、本学科を第一志望とする層の確保に依存している。しかし、総合型選抜は令和 3 年度（29 名）から令和 4 年度（9 名）へと急落した後、16～17 名程度で推移しており、安定性に欠ける。

・一般選抜および共通テスト利用入試

一般選抜の入学者は 5 ヶ年平均で 3.2 名であり、令和 5 年度には 0 名を記録した。共通テスト利用も平均 5.2 名に留まる。併願を前提とする一般受験層に対し、「感性デザイン」という名称や学問領域の強みが十分に訴求できていないことを示唆している。

② 分析のまとめと課題と改組の妥当性

・市場認知と併願力の弱さと規模の不利益

一般選抜での入学者が極めて少ないことは、国公立大学や他大学との併願先として選ばれていない現状を露呈している。また、定員 50 名という規模では、教育・研究の多様性をアピールしにくく、特定の狭い関心層（年内入試層）以外に波及していない。

・既存概念の限界

「感性デザイン」という名称が内包する芸術・感覚的なイメージと、実際の工学的基盤とのバランスが受験生に正しく理解されておらず、募集上のミスマッチが生じている。

・改組（デザイン工学部）への必要性

以上の分析結果に基づき、従来の学科枠組みを抜本的に解体し、高度な工学技術に創造的なデザイン思考を融合させた「デザイン工学部（定員 100 名）」へと再編・新設する。本改組の必要性は以下の 3 点に集約される。

募集ターゲットの抜本的拡大と明確化：受験生の関心が極めて高い「建築デザイン」、社会基盤を支える「国土デザイン」、そして人間の感性を科学する「感性デザイン」の 3 プログラムを軸に、実学領域を明確化する。これにより、従来の工学志望層に加え、都市部の美大・工大を志望するクリエイティブ志向層を確実に取り込み、一般選抜を含む全入試区分において志願者獲得の最大化を図る。

産業界の切実な人材需要への即応：現在、産業界では単なる技術者ではなく、「技術」に「付加価値」を実装し、新たなユーザー体験を創造できる人材が渴望されている。本学部は、3 つの専門領域を横断的に学ぶカリキュラムを構築することで、複雑化する社会課題を解決し、次世代の産業競争力を牽引する「付加価値創造志向の工学人材」を安定的に輩出する体制を確立する。

地域社会の再構築を担う専門性の提供：人口減少やインフラ再編が急務となっている地域社会において、機能性（工学）と持続可能性（デザイン）を両立させ、地域の魅力を再定義できる人材の育成は本学の使命である。3 プログラムの相互連携により、生活空間から国

土までをトータルにデザインできる高度専門人材を育成し、地域社会のウェルビーイング向上に寄与する。

*** 添付データ：【資料 3】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2 の 2-2）**

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

1) 既設組織における取組とその目標

【資料 4】（別紙 3）に既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績を示す。本学がこれまで実施してきた広報・PR 活動の実績を分析した結果、特に「オープンキャンパス」および「大学案内（資料請求）」の二つの活動が、入学者確保に極めて高い寄与度を持っていることが明らかとなった。近接する学問分野を持つ既設組織（工学部・感性デザイン学部）における過去 2 年間の実績は以下の通りである。

・添付データ：【資料 4】既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 3）

① オープンキャンパスの実施と入学への寄与

本学では、各学部・学科の教育内容や特色を直接体験できるオープンキャンパスを継続的に開催している。

・令和 6 年度入試: 受験対象者 194 人のうち、112 人が入学（入学率 57.7%）

・令和 7 年度入試: 受験対象者 150 人のうち、94 人が入学（入学率 62.7%）

オープンキャンパスに参加した受験対象者の入学率は、直近 2 年間の平均で約 6 割(60.2%)という高い水準に達している。このことから、実際のキャンパスライフや施設・教員に触れる「対面型・体験型」の PR 活動が、本学への志望度を決定づける極めて有効な手段であることが立証されている。

② 大学案内の配布・資料請求による PR 効果

大学の全体像や将来のキャリアパスを提示する「大学案内」の配布状況についても、着実な実績を上げている。

・令和 6 年度入試: 受験対象者 5,000 人のうち、111 人が入学（入学率 2.2%）

・令和 7 年度入試: 受験対象者 5,500 人のうち、102 人が入学（入学率 1.9%）

配布部数は前年度比で 500 部（10%）増加しており、本学に対する潜在的な関心層は拡大傾向にある。広範な資料配布を通じて認知度を向上させ、その一部を確実に受験・入学に繋げる「プッシュ型」の広報戦略が機能している。

③ 教員向け説明会・見学会を通じた地域連携

北東北 3 県（青森・岩手・秋田）を中心に、年間 12 回、約 40 校の高校教員を対象とした説明会や見学会を実施している。取組内容は教育特色、学生支援、就職・入試情報の詳細を教員に直接説明することで、進路指導の現場における本学のプレゼンス向上を図っている。特に県内高校を対象とした体験実習や模擬授業を通じて、教員を介した質の高い志願者確保に努めている。

***添付データ：【資料4】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）**

2) 新設組織における取組とその目標

① 学生募集のためのPR活動の方針及び戦略

既設組織の分析結果（オープンキャンパス参加者の入学率約 60%等）に基づき、デザイン工学部では「クリエイティブな学びの可視化」を軸に以下の戦略を展開する。

・「感性・空間・社会」を体感する広報の深化

高い入学率を誇るオープンキャンパスを核とし、感性デザインによるプロダクト制作、建築デザインの模型製作、国土デザインのまちづくりシミュレーションなど、3プログラムの専門性を直感的に理解できる体験メニューを戦略的に配置する。

理工系分野におけるジェンダーバランスの最適化を重要課題と位置づけ、2024 年度に設置した「STEAM 女子推進・支援室」の活動を全面的に発信する。女子学生が意欲的かつ安心して学生生活を送ることができるよう、学内施設の整備（アメニティの充実等）や、女子学生チームによるプロジェクト、学年を横断した「女子学生交流会」の実施状況を可視化。これにより、入学後に想定される不安（一人暮らし、学習、就職活動等）を解消する独自のサポート体制を強力に訴求する。

さらに、女子生徒を対象とした「指定校制女子特別枠」の活用を推進する。本制度は、女性技術者の育成を熱望する地域企業 60 社以上からの寄付金を原資に入学金相当額を給付するものであり、単なる学内制度に留まらず「社会が女性技術者の活躍を強く求めている」という実証的事実を、本人、保護者、および進路指導教員へ明確に提示するものである。

加えて、先進工学部の 6 プログラムと女性のキャリアパスの親和性を強調する。具体的には、「生物資源科学」によるスマート農業やバイオ技術、「モビリティ工学」「ロボット工学」における人間中心のユニバーサルデザインなど、女性の視点が不可欠な先端領域を提示。震災復興やインフラ整備、精密機器開発など、多様な志を持つ女子学生の夢が、本学の専門教育を通じて実現可能であることを、在学生の実例を交えて紹介し、志願者の獲得を図る。

・デジタルとアナログのハイブリッド展開

デザイン工学部の「洗練されたブランドイメージ」を SNS（Instagram 等）で視覚的に発信。学生の作品やプロジェクトのプロセスを公開することで、資料請求から来場、出願へと繋げる「ファン形成型リード育成」を強化する。

・「資格」と「創造的キャリア」の両立を可視化

一級建築士や技術士などの国家資格取得支援、および「付加価値を創造できる工学人材」への高い求人ニーズを具体的に図示。保護者や教員に対し、意匠（デザイン）と技術の両輪を備えた本学部の学びが、将来の確実なキャリア形成に直結することを強く訴求する。

② 実施計画・目標

・オープンキャンパス

年間 4 回以上の開催。3 プログラム合同の「デザインワークショップ」を併催し、参加者数を既設実績から 30%向上させる。

・大学案内・資料請求

「デザイン工学」の先進性を体現するエディトリアルデザインを採用したパンフレットを早期作成。配布目標を年間 6,000 部とし、県外（東北・北関東）の建築・デザイン系志向層へ配布網を拡大する。

・高校訪問・教員説明会

北東北 3 県を中心に年間 600 校以上を訪問。「文理融合」の学びが、多様な進路指導（理系・芸術系・社会系）に対応可能であることを直接説明する。

3) 当該取組の実績の分析に基づく、新設組織での入学者の見込み数

既設組織の過去 2 年間の実績（平均入学率等）に基づき、デザイン工学部の設置による「募集ターゲットの拡大」を考慮した見込み数を算出する。

① オープンキャンパスによる見込み（60 名以上／学部）

既設実績（R7 年度入学率 62.7%等）から、参加した受験対象者の約 6 割が入学に至ることが証明されている。人気の高い建築デザインをフックに、感性・国土の両プログラムへも誘導を図ることで、参加受験対象者を 100 名まで引き上げる。これにより、学部の定員の約 6 割を確保する。

② 大学案内・資料請求による見込み（40 名以上／学部）

資料請求者の入学率は約 2%で推移している。デザイン工学部の広報強化（3 プログラムの専門性訴求）により、年間 2,000 部（3 学部合計 6,000 部の 1/3）の請求を目標とすることで、40 名の入学者確保を見込む。

③ 総合評価

上記の主要な取組に加え、建築・土木系学科を持つ実業高校への指定校推薦枠の適正配置や、芸術・デザイン系志向層へのアプローチを組み合わせることで、デザイン工学部の入学定員 100 名を安定的に充足させることは、過去の実績値および「デザイン工学」という新領域への期待値に照らしても、十分に達成可能な数値である。

(2) 競合校の状況分析

1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

1-1) 競合校の選定理由

本学の主たる学生募集地域である北東北 3 県において、理工系・情報系・デザイン系への進学を希望する志願者は、本学のほか、仙台圏に所在する「東北工業大学」および「東北学院大学」を主な併願先とする。両校は本学と設置分野が類似しており、志願者確保における直接的な競合関係にある。

① 東北工業大学との比較

東北工業大学は、工学・建築・ライフデザインの 3 学部を擁する、東北最大規模の私立理工系大学である。同大は分科型の伝統的な組織体系を採り、各分野の裾野を広く網羅する汎用的な教育に強みを持つ。

これに対し、本学デザイン工学部の優位性は、「工学技術と感性デザインの統合」にある。東北工業大学が「建築（工学）」と「ライフデザイン（生活・経営）」を別個の学部として切り離しているのに対し、本学は建築・土木といった工学的基盤と、感性や人間中心のデザイン思考を一つの学部内で統合している。単なる造形美や生活提案に留まらず、安全性・機能性と人々の豊かさを両立させる「次世代の社会インフラ実装」に特化した先鋭的な教育を展開しており、分科型組織である同大にはない学際的なアプローチを可能にしている。

② 東北学院大学との比較

東北学院大学工学部は、機械知能、電気電子、環境建設の伝統的な工学3学科を擁する総合大学である。総合大学としてのリソースを活かした幅広い教養教育と、都市型キャンパスにおける文理融合教育を推進している。

これに対し、本学デザイン工学部の優位性は、「地域レジリエンスに直結した専門深化」にある。東北学院大学の環境建設工学科が標準的な工学体系を維持するのに対し、本学は、北東北の厳しい自然環境や地理的特性を考慮した「建築・土木」の専門性に、持続可能な地域デザインの視点を融合させている。

特に、人口減少社会におけるコンパクトシティの構築や、老朽化するインフラの再デザインなど、北東北の存続に不可欠な課題に対し、工学・デザインの両面から直接対応できる教育を提供している。都市型の汎用教育を展開する同大に対し、本学は地域社会の具体的課題を解決する「社会実装型エンジニア」の育成において明確な差別化を図っている。

1-2) 学部・組織構成、教育内容の優位性

競合校においては、建築（建物単体）、土木（インフラ）、デザイン（感性・ソフト）を個別の学科・学部に配置する「分科型」の組織構成が一般的であり、分野横断的な視点の醸成には限界がある。これに対し、本学のデザイン工学部は、建築学と土木工学をあえて「デザイン」の枠組みに内包させた。これは、人口減少社会における地域再生には、従来の「造るだけの工学」から脱却し、人間の感性に寄り添い、環境を統合的に設計する「デザインの力」を備えた技術者が不可欠であるという強い理念に基づくものである。大規模校ゆえに専門分化せざるを得ない仙台圏の競合校に対し、本学は「建築・土木・感性の三位一体教育」を通じて、北東北の持続可能な未来をデザインできる唯一無二の人材を輩出する。

① 建築デザインプログラム

建築を孤立した造形物ではなく、同一学部の「国土デザイン（土木）」や「感性デザイン」と連動した環境の一部として捉える。建物の意匠・構造のみならず、周辺インフラとの調和や、居住者の心理・感性を科学的に分析した「環境共生型の建築設計」を教育の特色とする。

② 国土デザインプログラム

伝統的な土木工学を「国土デザイン」と再定義し、機能性や堅牢性に加え、景観・利便性・感性といった付加価値を工学的に実装する教育を行う。北東北という厳しい自然環境において、地域の魅力を引き出す社会基盤を構築できる技術者を育成し、技術偏重になりがちな他大学との明確な差別化を図る。

③ 感性デザインプログラム

建築・土木という「実学の現場」を同一学部内に持つ強みを活かし、プロダクトやビジュアルのデザインが実際の都市空間においていかに機能するかを、工学的な裏付け（エビデンス）を持って検証する。生活シーンに主眼を置く他大学に対し、本学は「社会・公共空間の質を高めるエンジニアリング・デザイン」に特化した教育を展開する。

1-3) 経済的支援の妥当性と戦略的特待制度

本学の学納金体系は、近隣の仙台圏に所在する私立理工系大学と比較し、低廉な水準に設定されている。これは、青森県および北東北3県における経済状況を鑑み、家計の経済的負担を抑制することで、意欲ある学生に対する修学の機会を広く保障することを目的としている。仙台圏の諸大学と同等以上の教育研究環境を維持しつつ、経済的障壁を低減した学修機会を提供することで、修学の継続を組織的に支援している。

また、地域における優秀な人材の流出を抑制するため、学校推薦型選抜の合格者のうち、全体の学習成績の状況が4.6以上の学生に対し、授業料の2分の1を給付する手厚い特待制度を運用している。これにより、国公立大学志望層を含む層に対し、地元進学への強力なインセンティブを提示している。加えて、入試成績のみならず地域貢献への意欲を評価する独自の支援枠を設け、意欲ある若者の進学機会を保障している。

1-4) 学修保障と継続的支援

・「学習支援センター」による学修保障

教員一人あたりの学生数が少ない本学の特性を活かし、学習支援センターによる基礎学力の補完体制を構築している。入学時における学力の多様化に対応し、リメディアル教育を通じて高度な専門教育へ円滑に移行させる体制は、学生一人ひとりに目が届く本学独自の強みである。

・「担任制度」による継続的支援

大規模校における組織的な事務対応に対し、本学では入学から卒業まで同一の教員が継続的に伴走する「全学的担任制度」を導入し、履修指導、学修進捗の把握、生活相談、および進路指導に至るまで、学生の特性に応じた個別最適な指導を定常的に実施している。この「顔の見える」支援体制により、学生の精神的・学術的な不安を早期に解消している。

・中退防止と学修定着に向けた組織的連携

担任が学生の微細な変化を早期に察知し、学習支援センター等と組織的に連携して補習や面談を行う体制を確立している。これにより、理工系教育において懸念される学修未定着や中途退学を未然に防ぎ、高い教育成果と卒業時における専門性の確保を実現している。

1-5) 附属高校2校を有する「高大接続」の強み

本学は2つの附属高校を有しており、これは仙台圏の私立工業系大学と比較しても強固な学生確保の基盤および教育的メリットとなっている。

・教育の連続性

附属高校との間で行われる高大連携教育（出前講義、施設利用等）を通じて、入学前から工学・情報・デザインへの興味・関心を醸成し、大学での学びにスムーズに移行できる体制を整えている。

・安定的な学生確保

本学にとって最大の学生供給源である附属高等学校との円滑な連携は、人口減少社会における安定的な入学者確保の基盤であり、新組織の運営における持続可能性を担保するものである。附属高等学校からの内部進学者を対象とした「附属高校内部進学特待生制度」を戦略的に運用し、法人一体となった内部進学促進施策を講じている。これにより、高大一貫教育のメリットを活かした早期の専門教育導入や、接続教育の深化を通じた教育研究力のさらなる向上を推進している。

1-6) キャリア形成と資格取得

・就職支援と資格取得支援

北東北 3 県の産業界との強固なネットワークを活かし、担任と就職担当部署が連携した個別指導を行う。仙台圏の大学が都市型産業を主な対象とする中、本学は「地域の守り手」となる技術者を確実に輩出している。これまでも地域ニーズの高い国家資格（建築士、技術士補、電気主任技術者、情報処理技術者等）をはじめとして、各種専門分野に関連した取得をカリキュラム内で強力に支援している。

・教員養成を通じた地域教育基盤への貢献と地域定着の促進

本学は、高度な専門技術者の育成に留まらず、次世代の技術者育成を担う「中等教育における教育者（中学校・高等学校教諭）」の養成を教育の重要な柱の一つとして位置づけている。近隣広域圏の私立理工系大学においても教職課程は設置されているが、本学の特筆すべき点は、北東北における工学・情報教育の担い手不足という地域課題に対し、直接的な解決策を提示している点にある。本学で学んだ優秀な学生が教員として地域に戻り、次世代の生徒に工学・情報の魅力を伝えることで、本学への進学、さらには地域産業界への就職という「人材育成の循環構造」を構築する。これは、単なる資格取得に留まらない、地域定着の促進に向けた本学独自の戦略的取り組みである。

2) 競合校の入学志願動向等

【表 1-1】、【表 1-2】に近隣の主要併願校である東北工業大学および東北学院大学の直近 3 カ年の志願動向をしめす。

【表 1-1】 東北工業大学の過去 3 年間の入学志願状況

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
工学部 入学定員 385 名	志願者数	1,853 名	1,697 名	1,495 名
	入学者数	375 名	358 名	355 名
	入学定員充足率	97.4 %	93.0 %	92.2 %

建築学部 入学定員 135 名	志願者数	469 名	445 名	458 名
	入学者数	151 名	149 名	161 名
	入学定員充足率	111.9 %	110.4 %	119.3 %
ライフデザイン学部 入学定員 240 名	志願者数	993 名	892 名	859 名
	入学者数	292 名	281 名	289 名
	入学定員充足率	121.7%	117.1%	120.4 %

【表 1—2】東北学院大学の過去 3 年間の入学志願状況

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
工学部 入学定員 360 名	志願者数	1831 名	1971 名	1742 名
	入学者数	372 名	380 名	380 名
	入学定員充足率	103.3%	105.6%	105.6%

東北工業大学の「建築学部」「ライフデザイン学部」が恒常的に定員を大きく超過(約 120%)している点は、受験生が「住環境」や「生活に密着したデザイン」という明確な目的意識を持って志願していることを示している。

東北工業大学の工学部(分科型)が充足率を微減させている一方で、総合大学である東北学院大学の工学部は 105%前後で安定している。これは、受験生が単なる技術修得だけでなく、より広い視野や文理融合的な教育を求めている傾向の現れと言える。

3) 新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員未充足の場合のみ)

① 本学新設組織の優位性と充足の理由

既存校の充足率が停滞する中で、本学の新設組織が確実に入学者を確保できる理由は、以下の「組織の先鋭化」と「地域適合性」にある。

東北工業大学において「建築(119.3%)」や「ライフデザイン(120.4%)」が定員を大幅に超過している事実は、居住空間や生活環境への関心の高さを示している。しかし、既存校では「建築」「土木」「デザイン」が分断されている。

本学のデザイン工学部は、これらを「デザイン」という共通言語で統合した。建築志望でありながら都市開発や景観デザイン、福祉住環境にも関心を持つ層にとって、分断された既存学科よりも本学の複合的な学びは魅力的な選択肢となる。既存校の高倍率による「あふれ」を吸収するだけでなく、分野横断的な学びを求める層を確実に充足に繋げる。

② 「北東北 3 県」という戦略的募集エリアと経済的合理性

競合校が仙台圏を主戦場とする中、本学は北東北 3 県に深く根ざした募集戦略を展開する。

・**地域密着型教育**：地域のリアルなデータ(寒冷地、過疎、一次産業)を教育に用いることで、卒業後の地域貢献を志向する安定した志願者層(特に学校推薦型選抜層)を確保する。

・**経済的障壁の除去**：仙台圏への進学(下宿等を含む経費負担)が困難な層に対し、低廉な学納金と強力な特待生制度(評定 4.6 以上で授業料半額等)を提示する。これにより、経済

的理由で進学を断念、あるいは分野を変えていた層を、本来の志望である理工系・情報系へと呼び戻す。

③ 結論（定員充足の蓋然性）

以上の分析の通り、近隣の競合組織における充足率の低下は、既存の旧来型工学モデルの制度疲弊を示すものであり、学問分野そのものの需要減退ではない。むしろ、社会基盤の再定義が求められる今、デザインと技術を融合させた人材への期待はかつてないほど高まっている。

本学のデザイン工学部は、以下の 3 つの戦略的優位性により、設置初年度より入学定員を確実に充足させることが可能であると判断する。

独自の「空白地帯（ニッチ市場）」の独占：従来の建築・土木教育に、人間中心の「感性デザイン」を統合した本学部のモデルは、近隣他校が踏み込めていない独自の教育領域である。これにより、従来の工学志望層だけでなく、感性やクリエイティビティを重視する新たな層を惹きつけ、北東北における「デザイン工学のパイオニア」としての地位を確立する。

強力な内部進学・高大接続の基盤：本学の最大の強みは、グループ高校 2 校との強固な連携体制にある。建築・デザイン分野に早期から関心を持つ附属校生に対し、高大一貫のキャリア教育を通じてデザイン工学部の魅力を直接伝えることで、安定した内部進学ルートを確保し、入学者基盤を盤石なものにする。

産業直結型教育と圧倒的な支援体制：「地域インフラを支える国土デザイン」や「次世代の居住空間を創る建築デザイン」といった産業直結型のカリキュラムに加え、他校を圧倒する経済支援制度を組み合わせる。これにより、18 歳人口減少下においても「学びの価値」と「経済的優位性」の双方で選ばれる学部を実現する。

以上の通り、目に見える成果物を生み出すデザイン工学部は、本学の新たなブランドリーダーとして、定員充足において牽引的な役割を果たすものである。

4) 学納金等の金額設定の理由

本学の新組織（3 学部共通）の学納金設定の妥当性を検証するため、主な募集地域における競合校である東北工業大学（宮城県）および東北学院大学（宮城県）との比較を行う。比較項目は、入学金、授業料、維持費等を含む 4 年間の総額とする。新設組織の学納金等を【表 2】に、競合校の学納金等を【表 3-1】、【表 3-2】に示す。

【表 2】新設組織の学費等：3 学部共通 （円）

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	250,000	—	—	—	250,000
授業料	980,000	980,000	980,000	980,000	3,920,000
維持費等	352,000	361,000	361,000	361,000	1,435,000
計	1,582,000	1,341,000	1,341,000	1,341,000	5,605,000

【表 3-1】競合校の学費等：東北工業大学 工学部（全課程）・建築学部（建築学科）・
ライフデザイン学部（産業デザイン学科）（円）

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	250,000	—	—	—	250,000
授業料	1,010,000	1,010,000	1,010,000	1,010,000	4,040,000
維持費等	340,000	340,000	340,000	340,000	1,360,000
計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000	5,650,000

【表 3-2】競合校の学費等：東北学院大学 工学部（円）

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	270,000	—	—	—	270,000
授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000	4,392,000
維持費等	350,000	350,000	350,000	350,000	1,400,000
計	1,718,000	1,448,000	1,448,000	1,448,000	6,062,000

① 学納金設定の理由

本学の学納金設定にあたっては、以下の 3 点を基本方針としている。

・家計負担への配慮と修学機会の確保

本学の授業料は年額 980,000 円であり、比較校がいずれも 1,000,000 円を超える設定であるのに対し、抑制的な金額設定としている。これにより、経済的理由による進学断念を防ぎ、北東北を中心とする志願者に広く修学の機会を提供することを目指している。

・地域経済状況の反映（地域性の考慮）

本学の所在する青森県は、競合校の所在する宮城県（仙台圏）と比較して、物価水準および平均所得に差異がある。宮城県の私立理工系大学と同水準、あるいはそれ以下の学納金設定とすることで、地域社会の経済状況に適合した適正な負担額としている。

・教育組織の再編に伴う公平性の維持

今回の改組において、設置する 3 学部（総合情報学部、先進工学部、デザイン工学部）の学納金を同一金額に設定した。これにより、学生が経済的理由に左右されることなく、自身の適性や志向に基づいた学部選択を行える環境を整備している。

② 設定の妥当性

・経済的妥当性

4 年間の総額（5,605,000 円）において、東北工業大学より 45,000 円、東北学院大学より 457,000 円低い設定となっている。特に初年度納付金においては、競合校の中で最も低い 1,582,000 円に抑えられており、入学時の保護者の経済的負担を軽減している点は、公教育を担う機関として極めて妥当性が高いと判断できる。

・地域社会への適合性

仙台圏の大学へ進学する場合、学納金に加えて下宿費用等の生活費負担が増大する傾向にある。本学が学納金を抑制し、かつ地元（北東 3 県）に根ざした教育を提供することは、地域の人材流出抑制と家計の教育費負担軽減の双方において合理的な意義を有している。

・教育品質の担保

維持費等を年額 35～36 万円程度確保することで、理工系教育に不可欠な最新の実験実習設備や情報インフラの更新・維持を継続的に行う体制を整えている。安価な設定に留まるだけでなく、教育の質を維持・向上させるための資源を適切に配分しており、設定金額と提供する教育サービスのバランスは適正である。

以上の通り、本学の学納金は、競合する近隣他大学の実績を精査し、地域経済の実態と学生の修学継続を最優先に考慮して設定されたものである。他大学と比較して競争力のある価格設定でありながら、教育環境の維持に必要な経費を確保しており、新組織の設置にあたって極めて妥当な金額設定であるといえる。

(3) 先行事例分析

該当なし

(4) 学生確保に関するアンケート調査

1) 調査の概要

本学では、令和 9（2027）年 4 月の設置・改組を構想している「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部」の 3 学部（各入学定員 100 名）について、その設置の妥当性と学生確保の見通しを検証するため、進学需要調査を実施した。調査は令和 7 年 10 月から令和 8 年 1 月にかけて、本学と接点を持つ東北 6 県の高専（各学部約 30 校）の第 1 学年および第 2 学年の生徒、延べ約 18,000 人を対象に、高専留め置き方式による無記名アンケートにて行った。

2) 進学需要分析

工学にデザインの視点を融合させた本学部は、特に建築デザイン分野への関心が非常に高い。1 年生において土木建築工学関連への興味が 17.3%に達するなど、新学部のコンセプトが低学年層に深く浸透している。確実な入学見込層は 2 年生で 101 名、1 年生で 103 名と推計され、次年度以降も継続的な学生確保が可能である。

3) 総合評価と今後の学生確保見通し

全 3 学部の調査結果を総括すると、各学部の入学定員 100 名に対し、ターゲットとなる「確実な入学見込層」がいずれも 100 名を超えて存在している。この数値は、進学希望条件を厳格に絞り込んだ（私立容認・第一志望・専願志向）クロス集計に基づくものであり、募集計画の妥当性を極めて高く裏付けるものである。

東北地方の高校生は依然として高い国公立志向（約 8 割）を持つが、本調査では「新設学部への高い関心」と「第一志望層の確保」が明確に示された。今後は、これら確実な需要層

を確実に合格へ導くとともに、国公立志向層に対しても本学独自の「地域共創教育」や「先端技術とデザインの融合」という付加価値を訴求することで、安定的な志願者確保に努める。

以上の通り、本学の3学部新設・改組計画は、進学需要の観点から見て、適正な規模と妥当性を備えたものである。

***添付データ：【資料5】進学需要等に関するアンケート調査結果報告書**

(5) 人材需要に関するアンケート調査等

1) 調査の概要

本学では、令和9(2027)年4月に開設・改組を予定している「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部」の3学部が養成する人材に対し、産業界からの実質的な需要を把握するため、人材需要調査を実施した。調査は令和7年12月から令和8年1月にかけて、本学の卒業生に対して求人・採用実績のある企業317社を対象にオンライン形式で行い、129社から有効回答を得た(回答率40.7%)。回答企業の所在地は青森県(46.5%)および東京都(24.8%)を中心に全国広域にわたっており、地方産業と都市部産業の両面から意見を収集した。

2) デザイン工学部の需要分析結果

デザイン思考と工学の知識を融合させた人材への必要性は93.8%、採用意向は83.7%であった。回答企業における具体的な採用見込みを「1人」、「2人」、「3人以上」、「人数は未定」と回答した関連企業等は108件となっている。具体的な採用見込み人数は計139名(定員比約1.4倍)にのぼる。建設・設計分野や商品開発など、付加価値を創造できるクリエイティブな工学人材は、産業界の新たな課題解決において不可欠であると評価されている。

また、今後の人材採用の見通しについて、回答企業の75.2%が「増加すると思う」と回答しており、中長期的な視点においても卒業生の就職環境は極めて安定していると判断できる。本学はこれらの高い期待に応えるべく、地域社会および産業界を牽引できる高度な専門職業人の育成を確実に推進していく。

以上、本調査に基づき、新学部の設置による人材養成は社会的要請に十分に定めるものがあり、卒業後の進路確保の見通しについても極めて妥当であると結論付ける。

***添付データ：【資料6】人材需要等に関するアンケート調査結果報告書**

4. 新設組織の定員設定の理由

(1) 既存組織における定員未充足の現状と分析

本学の既存組織(工学部：定員250名、感性デザイン学部：定員50名)における近年の定員未充足については、以下の3点が主な要因であると分析している。

・学問分野の固定化とミスマッチ

従来の伝統的な「工学」の枠組みが、急速に進展するDX(デジタルトランスフォーメーション)やグリーン社会への転換といった現代の受験生・産業界のニーズと乖離し、志願者の動機付けが弱まっていた。

・定員規模のミスマッチ

特に工学部の定員 250 名は、現在の東北地方における 18 歳人口の減少スピードに対し過大な規模となっており、教育リソースの集中投下が困難な状況にあった。

・学問的融合の不足:

工学とデザインが分離していたことで、現代社会に求められる「付加価値創造(デザイン)を伴う技術(工学)」という学びのパッケージを提供できていなかった。

(2) 改組による「定員充足」への戦略的転換

今回の改組は、単なる組織名称の変更ではなく、市場分析に基づき定員充足を確実にするための「構造改革」として実施する。

・「3 学部各 100 名」への再編による志望精度の向上

既存の枠組みを解体し、デザイン工学部を含む 3 学部を各 100 名の適正規模に再編した。これにより、「感性・建築・国土」という 3 つの明確なプログラムを通じた「顔の見える少人数教育」を徹底。受験生が自身の専門性と将来のキャリアパスをより具体的にイメージできる体制を構築し、歩留まりの高い志願層を形成する。

・社会的要請に直結した「学部ブランド」への刷新

人材需要調査において採用ニーズが確認された「建築・土木・デザイン」の成長分野に特化。特にデザイン工学部は、意匠設計から社会基盤整備までを網羅する構成とし、出口（就職）を起点とした強力な志願動機を創出する。

(3) 調査結果による裏付けと充足の見通し

今回の新設学部に対する進学需要調査（高校生約 18,000 人対象）では、従来の工学部では捉えきれていなかった「第一志望かつ専願志向」の層が、定員 100 名を安定的に超える水準で抽出されている。

特にデザイン工学部においては、建築とデザインを高度に融合させることで、既存の組織では取りこぼしていた「工学的技術を武器にしたいデザイン志望層」と「デザインの感性を備えたい工学志望層」の双方をクロスオーバーに獲得する。この「専門性の掛け合わせ」こそが、北東北における本学部の独自性（ブルーオーシャン）であり、確実な志願者確保の源泉となる。

(4) 結論

本改組は、既存のミスマッチを真摯に受け止め、社会的ニーズと進学需要を合致させるために断行するものである。デザイン工学部における定員 100 名という設定は、産業界の具体的な求人倍率および進学需要調査で示された「定員 1 倍超の確実な入学見込層」から算出された「確実に充足可能な適正規模」である。

以上のことから、本計画における定員設定は極めて妥当であり、設置初年度からの継続的な定員充足は十分に可能であると判断する。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料 1】 18 歳人口予測	1
【資料 2】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	17
【資料 3】 既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2）	18
【資料 4】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2-1、2-2） . .	19
【資料 5】 高校生の入学意向調査結果報告書	21
【資料 6】 人材需要に関するアンケート調査票	42
【資料 7】 リーフレット	59

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東北版

- 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県 -



【将来予測 2025～2037年】

▶18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2025年73,778人→2037年55,139人（18,639人減少）
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.7%減少）

【経過推移 2016～2025年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2016年31,759人→2025年31,094人（665人減少）と、2.1%減少
- ・ 短期大学は、2016年4,361人→2025年2,402人（1,959人減少）と、44.9%減少
- ・ 専門学校は、2016年13,762人→2025年10,984人（2,778人減少）と、20.2%減少

進学率（現役）

- ・ 大学は、2016年39.1%→2025年47.5%（8.4ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2016年5.4%→2025年3.7%（1.7ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2016年16.9%→2025年16.8%（0.1ポイント低下）

▶地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2016年34.1%→2025年35.8%（1.7ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2016年66.4%→2025年69.1%（2.7ポイント上昇）

▶東北エリア概要（全体：県別） P14～P16

■分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業生＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業生＋特別支援学校（中学部）卒業生
 - ・ 中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者 全て含む
- ※2025年度学校基本調査より、特別支援学校の在籍者・卒業生数も対象に含めている。
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業生数とは、高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）。
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数。
- ⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
- ⑧ 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

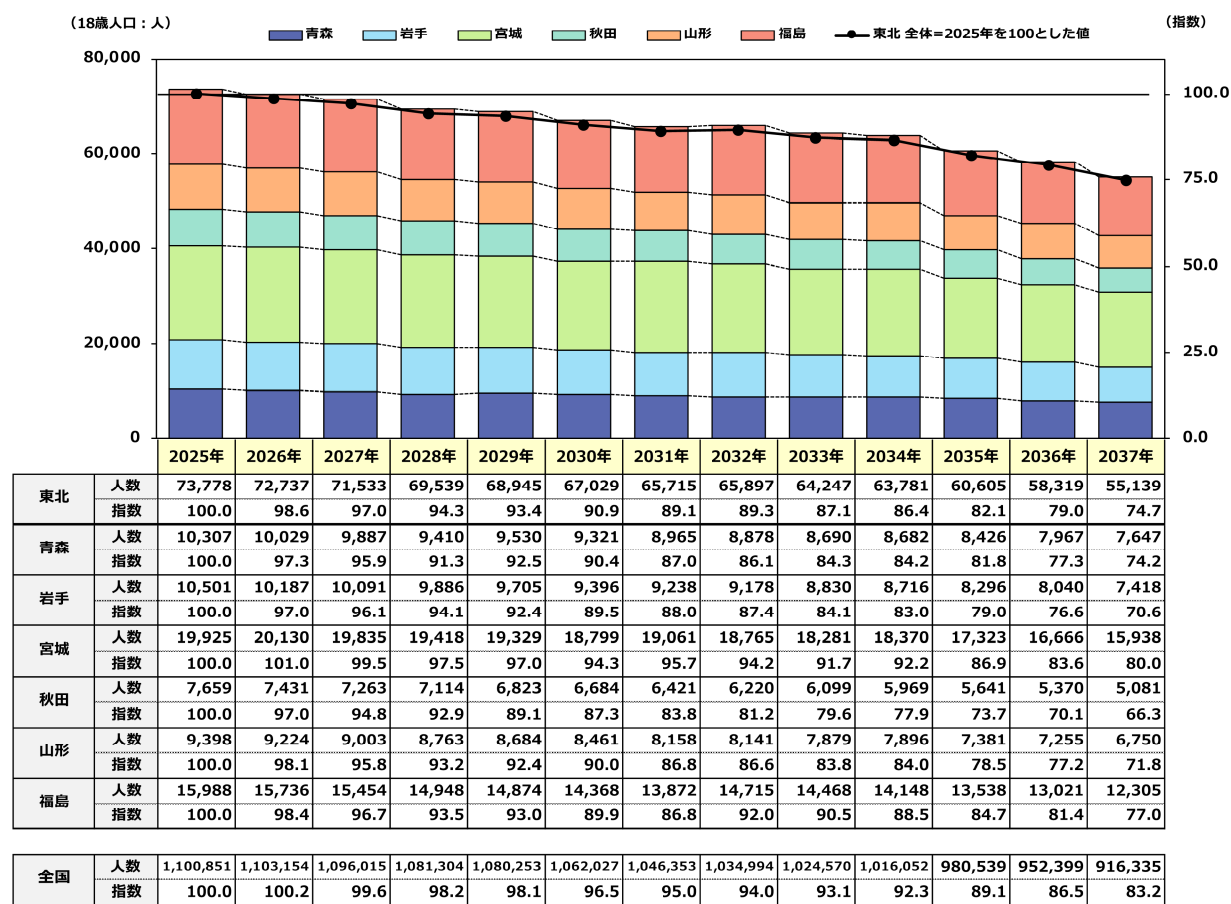
※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：東北：2025～2037年）

■ 2025年73,778人→2037年55,139人（18,639人減少）

- ・東北エリアは18,639人・25.3%減少し、全国の減少率16.8%を8.5ポイント上回る。
- ・2026年以降減少し、2032年に微増するものの、2037年までに18,639人減少する。
- ・減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.7%減少）。
- ・減少数が多いのは、宮城県（2025年19,925人→2037年15,938人、3,987人減少）。

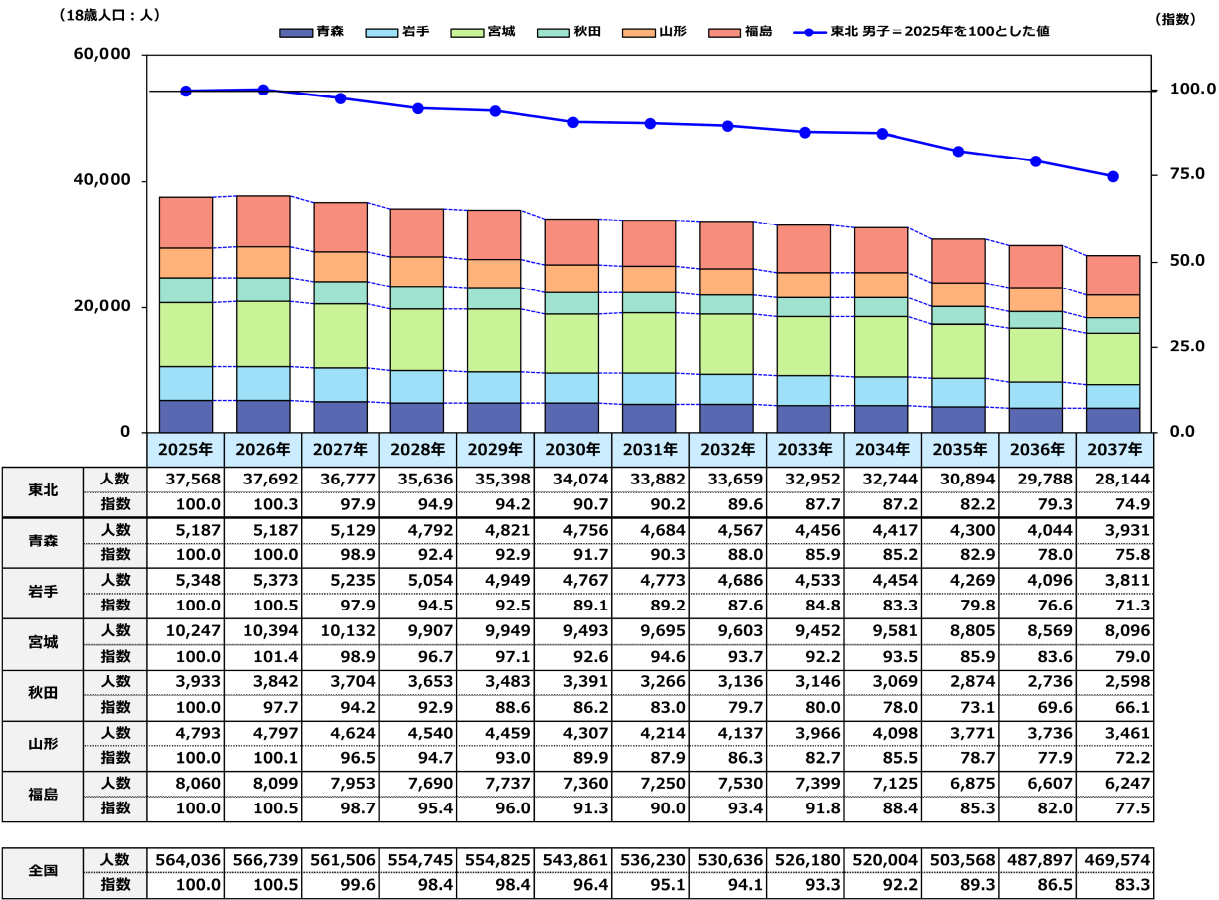


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：東北：2025～2037年）

■ 2025年37,568人→2037年28,144人（9,424人減少）

- ・ 男子は9,424人・25.1%減少し、全国の減少率16.7%を8.4ポイント上回る。
- ・ 2026年に124人微増し、2027年から減少に転じ、2030年から2032年はほぼ横ばいで推移し、翌2033年から減少傾向となる。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.9%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、宮城県（2025年10,247人→2037年8,096人、2,151人減少）。

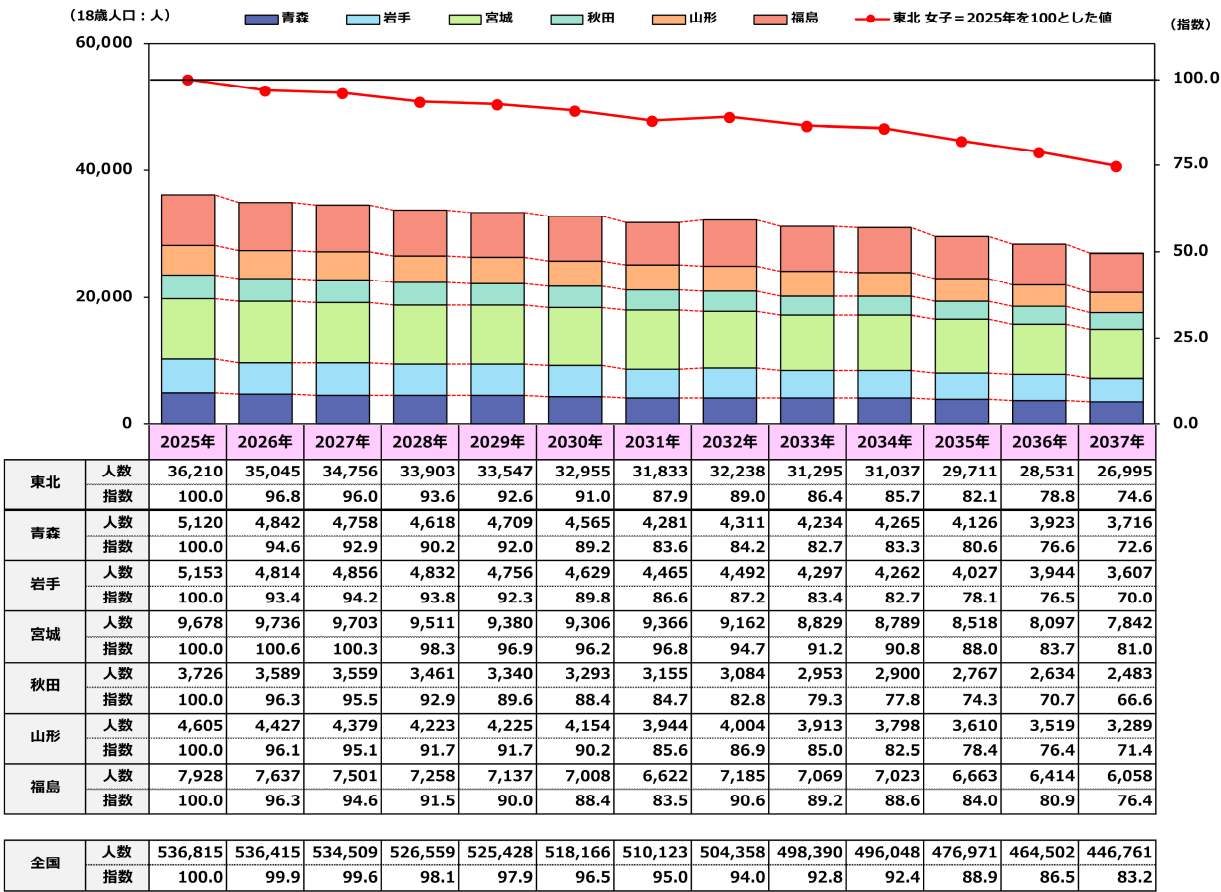


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：東北：2025～2037年）

■ 2025年36,210人→2037年26,995人（9,215人減少）

- ・ 女子は9,215人・25.4%減少し、全国の減少率16.8%を8.6ポイント上回る。
- ・ 2026年以降減少するが、2032年に405人増加。以降は減少傾向。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.4%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、福島県（2025年7,928人→2037年6,058人、1,870人減少）。

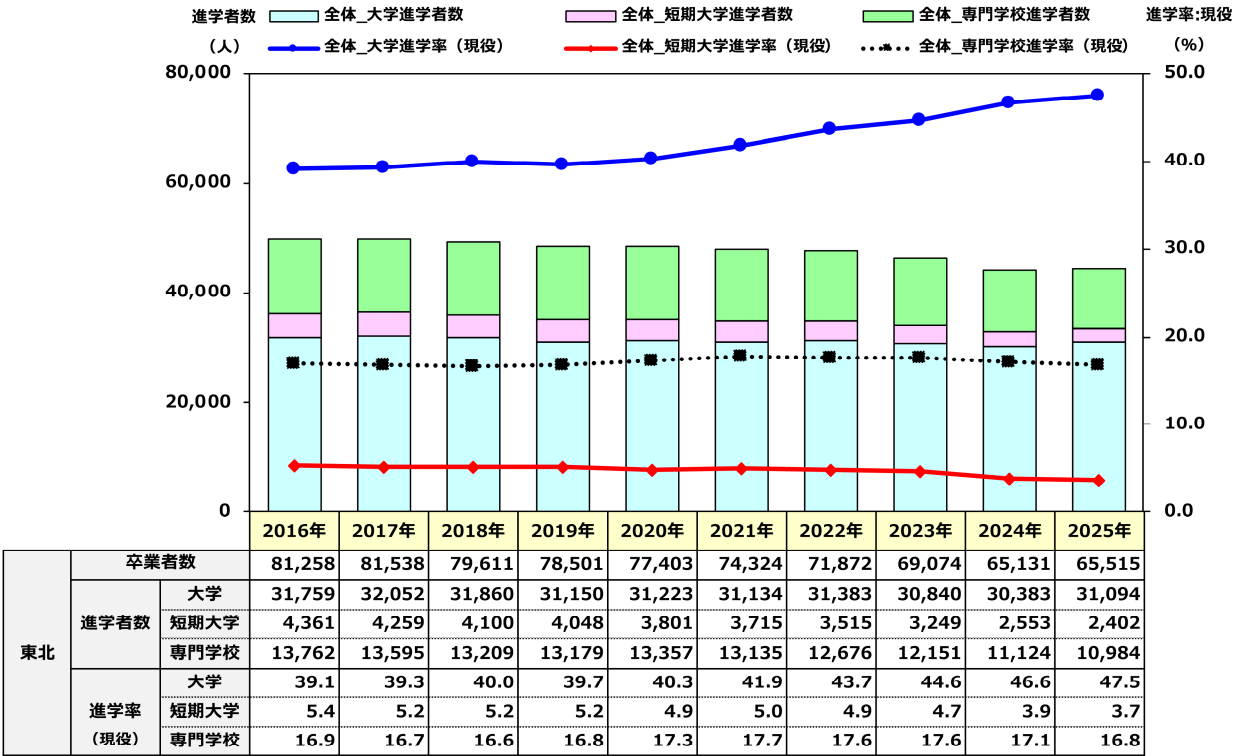


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：東北：2016～2025年）

■ 10年で大学進学率は8.4ポイント上昇しているが、進学者数は全校種で減少（合計5,402人減少）

- 進学者数**
- ・ 大学は、2016年31,759人→2025年31,094人（665人減少）と、2.1%減少。
 - ・ 短期大学は、2016年4,361人→2025年2,402人（1,959人減少）と、44.9%減少。
 - ・ 専門学校は、2016年13,762人→2025年10,984人（2,778人減少）と、20.2%減少。
- 進学率（現役）**
- ・ 大学は、2016年39.1%→2025年47.5（8.4ポイント上昇）。
 - ・ 短期大学は、2016年5.4%→2025年3.7%（1.7ポイント低下）。
 - ・ 専門学校は、2016年16.9%→2025年16.8%（0.1ポイント低下）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

- ・ 卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		12,481	12,386	11,973	11,710	11,573	11,056	10,597	10,048	9,227	9,179
	進学者数 （人）	大学	4,526	4,583	4,741	4,580	4,617	4,672	4,737	4,598	4,387	4,450
		短期大学	679	672	607	598	534	519	497	481	379	326
		専門学校	1,868	1,828	1,696	1,703	1,785	1,754	1,677	1,511	1,318	1,369
	進学率 （%）	大学	36.3	37.0	39.6	39.1	39.9	42.3	44.7	45.8	47.5	48.5
		短期大学	5.4	5.4	5.1	5.1	4.6	4.7	4.7	4.8	4.1	3.6
		専門学校	15.0	14.8	14.2	14.5	15.4	15.9	15.8	15.0	14.3	14.9
岩手	卒業生数（人）		11,652	11,837	11,415	11,438	11,166	10,585	10,268	9,804	9,263	9,386
	進学者数 （人）	大学	4,267	4,375	4,320	4,244	4,284	4,138	4,085	4,064	4,070	4,174
		短期大学	658	565	549	541	532	469	491	402	343	333
		専門学校	2,166	2,013	2,251	2,203	2,163	2,021	2,155	1,856	1,656	1,744
	進学率 （%）	大学	36.6	37.0	37.8	37.1	38.4	39.1	39.8	41.5	43.9	44.5
		短期大学	5.6	4.8	4.8	4.7	4.8	4.4	4.8	4.1	3.7	3.5
		専門学校	18.6	17.0	19.7	19.3	19.4	19.1	21.0	18.9	17.9	18.6
宮城	卒業生数（人）		20,204	20,421	20,322	20,065	19,843	19,412	19,033	18,286	17,349	17,568
	進学者数 （人）	大学	9,005	9,027	8,943	8,851	8,811	8,871	9,194	9,057	8,855	9,158
		短期大学	756	801	851	849	846	921	788	777	545	544
		専門学校	3,029	3,134	3,224	3,332	3,454	3,396	3,228	3,135	3,006	2,778
	進学率 （%）	大学	44.6	44.2	44.0	44.1	44.4	45.7	48.3	49.5	51.0	52.1
		短期大学	3.7	3.9	4.2	4.2	4.3	4.7	4.1	4.2	3.1	3.1
		専門学校	15.0	15.3	15.9	16.6	17.4	17.5	17.0	17.1	17.3	15.8
秋田	卒業生数（人）		8,881	8,742	8,503	8,124	8,029	7,586	7,255	7,169	6,730	6,824
	進学者数 （人）	大学	3,246	3,244	3,231	3,064	3,039	3,064	2,924	2,906	2,903	2,911
		短期大学	620	601	522	530	455	475	466	409	326	318
		専門学校	1,571	1,446	1,408	1,359	1,372	1,349	1,217	1,306	1,174	1,187
	進学率 （%）	大学	36.5	37.1	38.0	37.7	37.9	40.4	40.3	40.5	43.1	42.7
		短期大学	7.0	6.9	6.1	6.5	5.7	6.3	6.4	5.7	4.8	4.7
		専門学校	17.7	16.5	16.6	16.7	17.1	17.8	16.8	18.2	17.4	17.4
山形	卒業生数（人）		10,398	10,248	10,108	10,005	9,995	9,555	9,169	8,948	8,385	8,556
	進学者数 （人）	大学	3,865	3,878	3,865	3,736	3,912	3,821	3,924	3,781	3,812	3,882
		短期大学	640	628	572	590	540	474	462	435	324	316
		専門学校	1,910	1,859	1,730	1,824	1,872	1,858	1,726	1,784	1,648	1,631
	進学率 （%）	大学	37.2	37.8	38.2	37.3	39.1	40.0	42.8	42.3	45.5	45.4
		短期大学	6.2	6.1	5.7	5.9	5.4	5.0	5.0	4.9	3.9	3.7
		専門学校	18.4	18.1	17.1	18.2	18.7	19.4	18.8	19.9	19.7	19.1
福島	卒業生数（人）		17,642	17,904	17,290	17,159	16,797	16,130	15,550	14,819	14,177	14,002
	進学者数 （人）	大学	6,850	6,945	6,760	6,675	6,560	6,568	6,519	6,434	6,356	6,519
		短期大学	1,008	992	999	940	894	857	811	745	636	565
		専門学校	3,218	3,315	2,900	2,758	2,711	2,757	2,673	2,559	2,322	2,275
	進学率 （%）	大学	38.8	38.8	39.1	38.9	39.1	40.7	41.9	43.4	44.8	46.6
		短期大学	5.7	5.5	5.8	5.5	5.3	5.3	5.2	5.0	4.5	4.0
		専門学校	18.2	18.5	16.8	16.1	16.1	17.1	17.2	17.3	16.4	16.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：東北：2016～2025年）

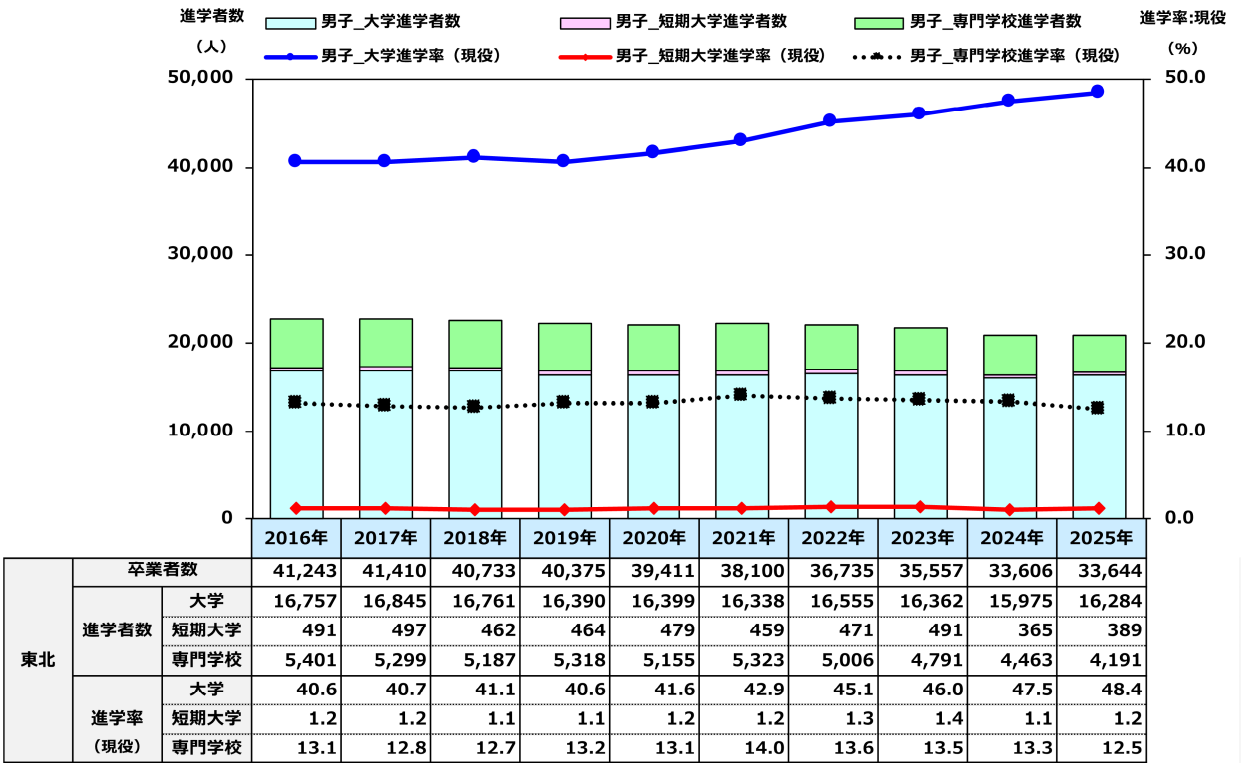
■男子では、大学進学率は7.8ポイント上昇、短期大学進学率は変動なし、専門学校進学率は0.6ポイント低下。進学者数は全校種で減少している（合計1,785人減少）

進学者数

- ・大学は、2016年16,757人→2025年16,284人（473人減少）と、2.8%減少。
- ・短期大学は、2016年491人→2025年389人（102人減少）と、20.8%減少。
- ・専門学校は、2016年5,401人→2025年4,191人（1,210人減少）と、22.4%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2016年40.6%→2025年48.4%（7.8ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2016年1.2%→2025年1.2%（変動なし）。
- ・専門学校は、2016年13.1%→2025年12.5%（0.6ポイント低下）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		6,344	6,237	6,117	5,993	5,975	5,763	5,434	5,181	4,763	4,679
	進学者数 （人）	大学	2,356	2,376	2,481	2,430	2,469	2,464	2,484	2,431	2,305	2,308
		短期大学	69	73	79	81	77	75	85	89	62	67
		専門学校	683	665	621	626	659	671	609	553	517	485
	進学率 （％）	大学	37.1	38.1	40.6	40.5	41.3	42.8	45.7	46.9	48.4	49.3
		短期大学	1.1	1.2	1.3	1.4	1.3	1.3	1.6	1.7	1.3	1.4
		専門学校	10.8	10.7	10.2	10.4	11.0	11.6	11.2	10.7	10.9	10.4
岩手	卒業生数（人）		5,951	6,071	5,860	5,960	5,678	5,413	5,360	5,008	4,741	4,825
	進学者数 （人）	大学	2,230	2,248	2,229	2,198	2,213	2,123	2,138	2,054	2,047	2,131
		短期大学	131	99	99	89	108	97	102	106	74	86
		専門学校	949	832	942	933	841	804	903	741	653	681
	進学率 （％）	大学	37.5	37.0	38.0	36.9	39.0	39.2	39.9	41.0	43.2	44.2
		短期大学	2.2	1.6	1.7	1.5	1.9	1.8	1.9	2.1	1.6	1.8
		専門学校	15.9	13.7	16.1	15.7	14.8	14.9	16.8	14.8	13.8	14.1
宮城	卒業生数（人）		10,210	10,336	10,372	10,169	10,082	9,921	9,686	9,382	8,861	9,061
	進学者数 （人）	大学	4,708	4,722	4,693	4,613	4,646	4,719	4,887	4,872	4,610	4,786
		短期大学	78	110	78	84	99	97	84	129	89	102
		専門学校	1,153	1,233	1,280	1,330	1,334	1,411	1,247	1,204	1,196	1,052
	進学率 （％）	大学	46.1	45.7	45.2	45.4	46.1	47.6	50.5	51.9	52.0	52.8
		短期大学	0.8	1.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.9	1.4	1.0	1.1
		専門学校	11.3	11.9	12.3	13.1	13.2	14.2	12.9	12.8	13.5	11.6
秋田	卒業生数（人）		4,437	4,416	4,351	4,177	4,045	3,841	3,703	3,705	3,454	3,505
	進学者数 （人）	大学	1,719	1,711	1,675	1,580	1,550	1,586	1,543	1,552	1,506	1,511
		短期大学	67	71	70	70	63	60	63	58	42	46
		専門学校	584	529	518	536	545	515	457	495	445	445
	進学率 （％）	大学	38.7	38.7	38.5	37.8	38.3	41.3	41.7	41.9	43.6	43.1
		短期大学	1.5	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6	1.7	1.6	1.2	1.3
		専門学校	13.2	12.0	11.9	12.8	13.5	13.4	12.3	13.4	12.9	12.7
山形	卒業生数（人）		5,328	5,218	5,181	5,129	5,081	4,926	4,661	4,636	4,362	4,404
	進学者数 （人）	大学	2,041	2,064	2,017	1,956	2,067	1,995	2,040	2,011	2,030	2,063
		短期大学	66	85	56	73	62	46	62	54	55	37
		専門学校	766	695	690	705	669	750	695	736	672	635
	進学率 （％）	大学	38.3	39.6	38.9	38.1	40.7	40.5	43.8	43.4	46.5	46.8
		短期大学	1.2	1.6	1.1	1.4	1.2	0.9	1.3	1.2	1.3	0.8
		専門学校	14.4	13.3	13.3	13.7	13.2	15.2	14.9	15.9	15.4	14.4
福島	卒業生数（人）		8,973	9,132	8,852	8,947	8,550	8,236	7,891	7,645	7,425	7,170
	進学者数 （人）	大学	3,703	3,724	3,666	3,613	3,454	3,451	3,463	3,442	3,477	3,485
		短期大学	80	59	80	67	70	84	75	55	43	51
		専門学校	1,266	1,345	1,136	1,188	1,107	1,172	1,095	1,062	980	893
	進学率 （％）	大学	41.3	40.8	41.4	40.4	40.4	41.9	43.9	45.0	46.8	48.6
		短期大学	0.9	0.6	0.9	0.7	0.8	1.0	1.0	0.7	0.6	0.7
		専門学校	14.1	14.7	12.8	13.3	12.9	14.2	13.9	13.9	13.2	12.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：東北：2016～2025年）

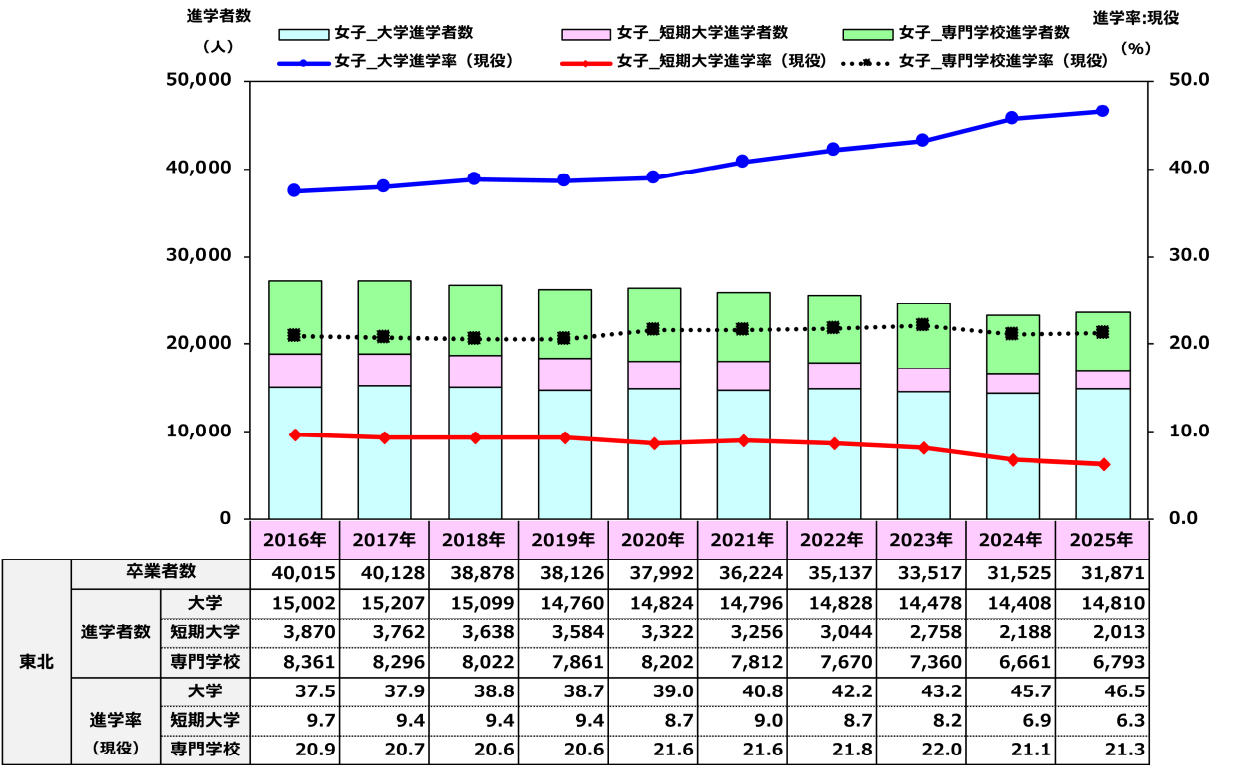
■女子では、大学進学率は9.0ポイント上昇、短期大学進学率は3.4ポイント低下、専門学校進学率は0.4ポイント上昇。進学者数は全校種で減少している（合計3,617人減少）

進学者数

- ・大学は、2016年15,002人→2025年14,810人（192人減少）と、1.3%減少。
- ・短期大学は、2016年3,870人→2025年2,013人（1,857人減少）と、48.0%減少。
- ・専門学校は、2016年8,361人→2025年6,793人（1,568人減少）と、18.8%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2016年37.5%→2025年46.5%（9.0ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2016年9.7%→2025年6.3%（3.4ポイント低下）。
- ・専門学校は、2016年20.9%→2025年21.3%（0.4ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		6,137	6,149	5,856	5,717	5,598	5,293	5,163	4,867	4,464	4,500
	進学者数 （人）	大学	2,170	2,207	2,260	2,150	2,148	2,208	2,253	2,167	2,082	2,142
		短期大学	610	599	528	517	457	444	412	392	317	259
		専門学校	1,185	1,163	1,075	1,077	1,126	1,083	1,068	958	801	884
	進学率 （％）	大学	35.4	35.9	38.6	37.6	38.4	41.7	43.6	44.5	46.6	47.6
		短期大学	9.9	9.7	9.0	9.0	8.2	8.4	8.0	8.1	7.1	5.8
		専門学校	19.3	18.9	18.4	18.8	20.1	20.5	20.7	19.7	17.9	19.6
岩手	卒業生数（人）		5,701	5,766	5,555	5,478	5,488	5,172	4,908	4,796	4,522	4,561
	進学者数 （人）	大学	2,037	2,127	2,091	2,046	2,071	2,015	1,947	2,010	2,023	2,043
		短期大学	527	466	450	452	424	372	389	296	269	247
		専門学校	1,217	1,181	1,309	1,270	1,322	1,217	1,252	1,115	1,003	1,063
	進学率 （％）	大学	35.7	36.9	37.6	37.3	37.7	39.0	39.7	41.9	44.7	44.8
		短期大学	9.2	8.1	8.1	8.3	7.7	7.2	7.9	6.2	5.9	5.4
		専門学校	21.3	20.5	23.6	23.2	24.1	23.5	25.5	23.2	22.2	23.3
宮城	卒業生数（人）		9,994	10,085	9,950	9,896	9,761	9,491	9,347	8,904	8,488	8,507
	進学者数 （人）	大学	4,297	4,305	4,250	4,238	4,165	4,152	4,307	4,185	4,245	4,372
		短期大学	678	691	773	765	747	824	704	648	456	442
		専門学校	1,876	1,901	1,944	2,002	2,120	1,985	1,981	1,931	1,810	1,726
	進学率 （％）	大学	43.0	42.7	42.7	42.8	42.7	43.7	46.1	47.0	50.0	51.4
		短期大学	6.8	6.9	7.8	7.7	7.7	8.7	7.5	7.3	5.4	5.2
		専門学校	18.8	18.8	19.5	20.2	21.7	20.9	21.2	21.7	21.3	20.3
秋田	卒業生数（人）		4,444	4,326	4,152	3,947	3,984	3,745	3,552	3,464	3,276	3,319
	進学者数 （人）	大学	1,527	1,533	1,556	1,484	1,489	1,478	1,381	1,354	1,397	1,400
		短期大学	553	530	452	460	392	415	403	351	284	272
		専門学校	987	917	890	823	827	834	760	811	729	742
	進学率 （％）	大学	34.4	35.4	37.5	37.6	37.4	39.5	38.9	39.1	42.6	42.2
		短期大学	12.4	12.3	10.9	11.7	9.8	11.1	11.3	10.1	8.7	8.2
		専門学校	22.2	21.2	21.4	20.9	20.8	22.3	21.4	23.4	22.3	22.4
山形	卒業生数（人）		5,070	5,030	4,927	4,876	4,914	4,629	4,508	4,312	4,023	4,152
	進学者数 （人）	大学	1,824	1,814	1,848	1,780	1,845	1,826	1,884	1,770	1,782	1,819
		短期大学	574	543	516	517	478	428	400	381	269	279
		専門学校	1,144	1,164	1,040	1,119	1,203	1,108	1,031	1,048	976	996
	進学率 （％）	大学	36.0	36.1	37.5	36.5	37.5	39.4	41.8	41.0	44.3	43.8
		短期大学	11.3	10.8	10.5	10.6	9.7	9.2	8.9	8.8	6.7	6.7
		専門学校	22.6	23.1	21.1	22.9	24.5	23.9	22.9	24.3	24.3	24.0
福島	卒業生数（人）		8,669	8,772	8,438	8,212	8,247	7,894	7,659	7,174	6,752	6,832
	進学者数 （人）	大学	3,147	3,221	3,094	3,062	3,106	3,117	3,056	2,992	2,879	3,034
		短期大学	928	933	919	873	824	773	736	690	593	514
		専門学校	1,952	1,970	1,764	1,570	1,604	1,585	1,578	1,497	1,342	1,382
	進学率 （％）	大学	36.3	36.7	36.7	37.3	37.7	39.5	39.9	41.7	42.6	44.4
		短期大学	10.7	10.6	10.9	10.6	10.0	9.8	9.6	9.6	8.8	7.5
		専門学校	22.5	22.5	20.9	19.1	19.4	20.1	20.6	20.9	19.9	20.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

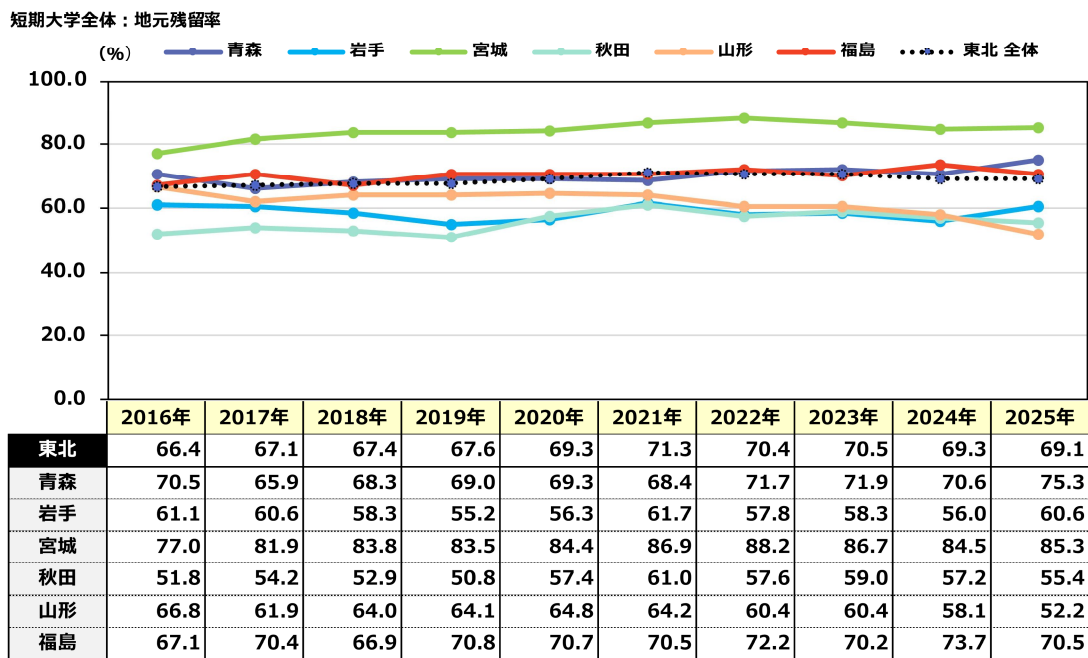
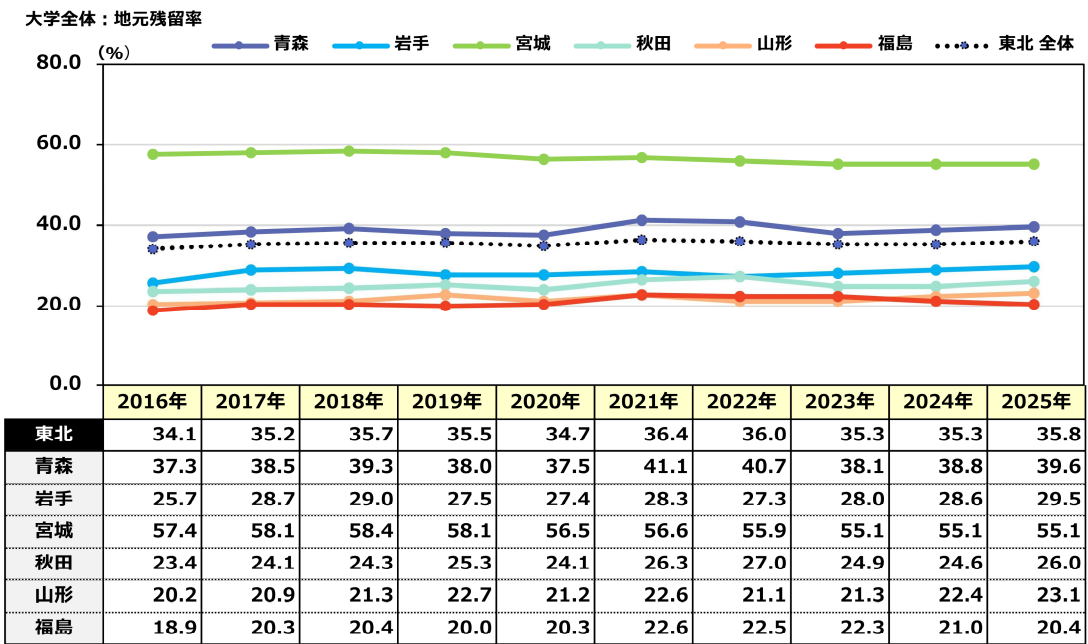
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（全体：東北：2016～2025年）

■ 大学は、2016年34.1%→2025年35.8%（1.7ポイント上昇）
短期大学は、2016年66.4%→2025年69.1%（2.7ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年25.7%→2025年29.5%、3.8ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2016年77.0%→2025年85.3%、8.3ポイント上昇）。

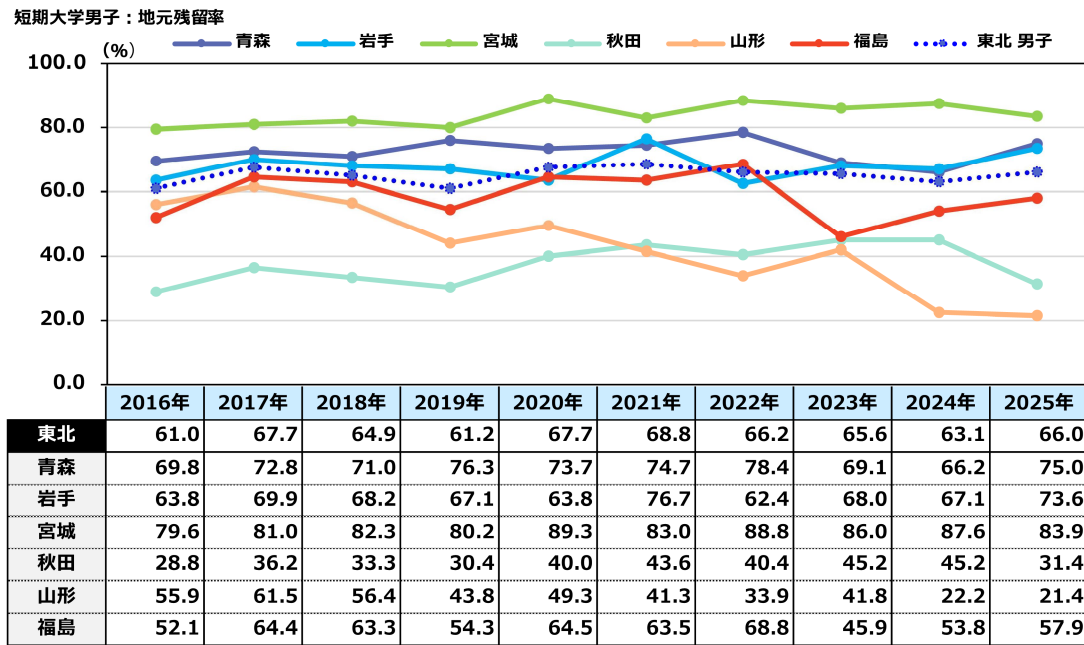
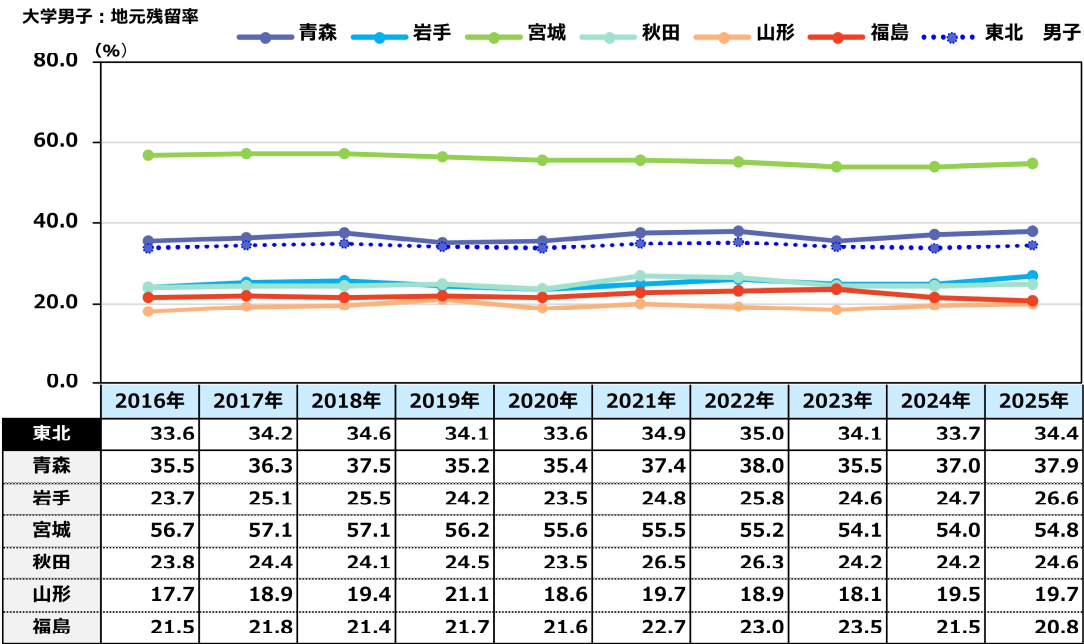


※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（男子：東北：2016～2025年）

■ 大学は、2016年33.6%→2025年34.4%（0.8ポイント上昇）
短期大学は、2016年61.0%→2025年66.0%（5.0ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年23.7%→2025年26.6%、2.9ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのも、岩手県（2016年63.8%→2025年73.6%、9.8ポイント上昇）。

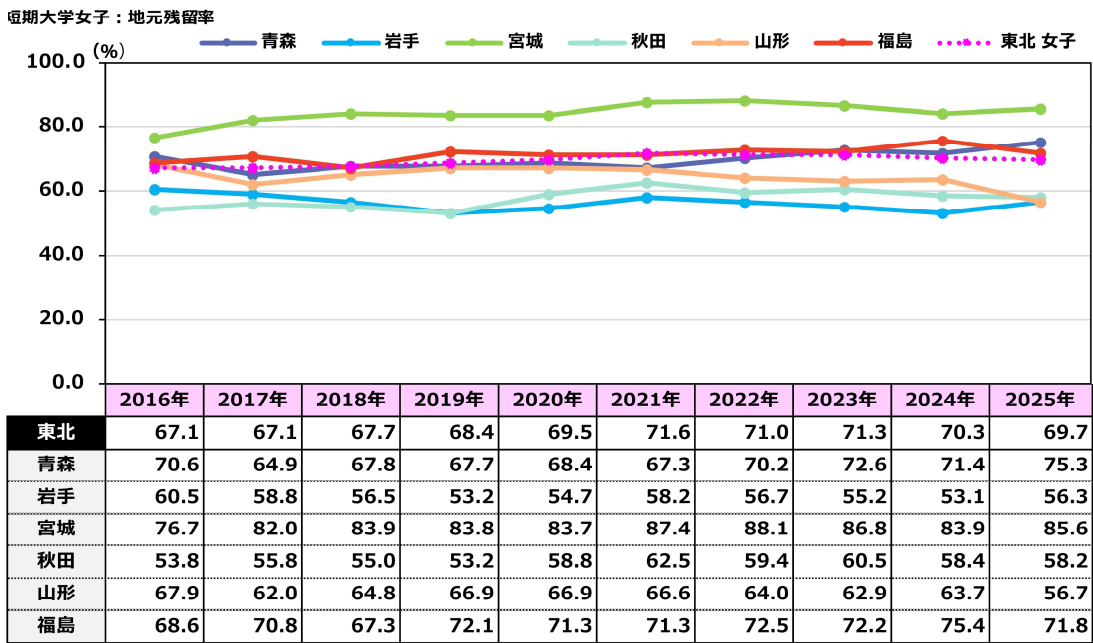
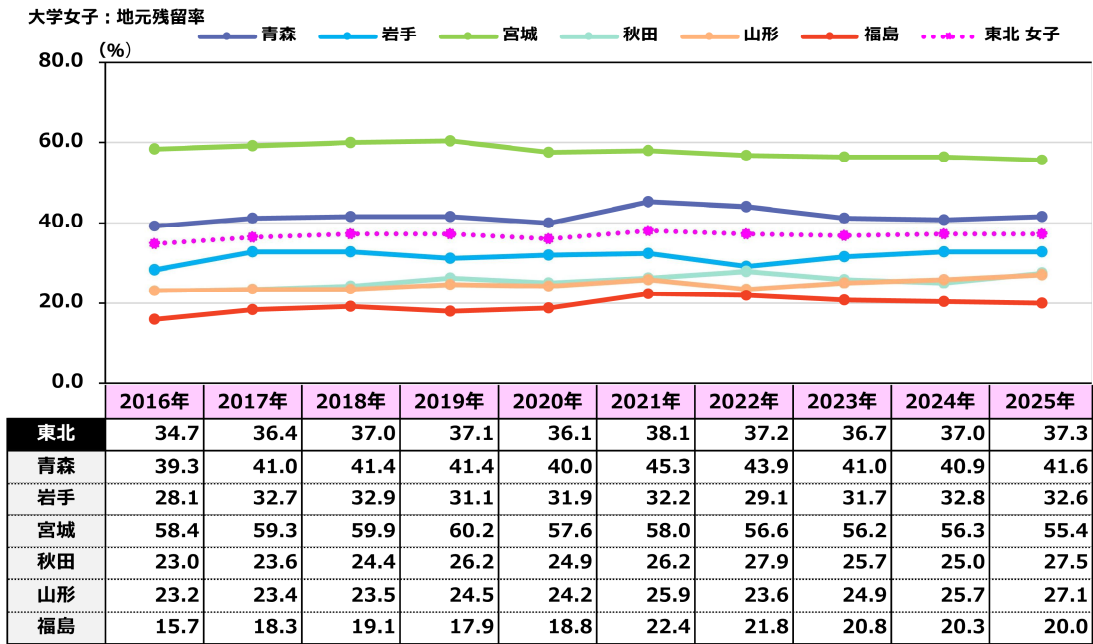


※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（女子：東北：2016～2025年）

■大学は、2016年34.7%→2025年37.3%（2.6ポイント上昇）
短期大学は、2016年67.1%→2025年69.7%（2.6ポイント上昇）

- ・大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年28.1%→2025年32.6%、4.5ポイント上昇）、秋田県（2016年23.0%→2025年27.5%、4.5ポイント上昇）。
- ・短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2016年76.7%→2025年85.6%、8.9ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

東北エリア概要（全体：県別）

青森県



学校数

大学 : 10 (国立 1・公立 2・私立 7)
短期大学 : 5 (私立 5)
専門学校 : 22 (公立 4・私立 18)

卒業者数

2016年12,481人→2025年9,179人 (3,302人減少)

進学者数

大学 : 2016年4,526人→2025年4,450人 (76人減少)
短期大学 : 2016年 679人→2025年 326人 (353人減少)
専門学校 : 2016年1,868人→2025年1,369人 (499人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.3%→2025年48.5% (12.2ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 5.4%→2025年 3.6% (1.8ポイント低下)
専門学校 : 2016年15.0%→2025年14.9% (0.1ポイント低下)

残留率

大学 : 2016年37.3%→2025年39.6% (2.3ポイント上昇)
短期大学 : 2016年70.5%→2025年75.3% (4.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位北海道 (424人)、2位岩手 (249人)、3位秋田 (185人)
短期大学 : 1位秋田 (19人)、2位岩手 (18人)、3位宮城 (2人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (590人)、2位宮城 (570人)、3位北海道 (317人)
短期大学 : 1位宮城 (33人)、2位山形 (11人)、3位東京 (9人)

学校数

大学 : 6 (国立 1・公立 1・私立 4)
短期大学 : 4 (公立 2・私立 2)
専門学校 : 31 (公立 4・私立 27)

卒業者数

2016年11,652人→2025年9,386人 (2,266人減少)

進学者数

大学 : 2016年4,267人→2025年4,174人 (93人減少)
短期大学 : 2016年 658人→2025年 333人 (325人減少)
専門学校 : 2016年2,166人→2025年1,744人 (422人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.6%→2025年44.5% (7.9ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 5.6%→2025年 3.5% (2.1ポイント低下)
専門学校 : 2016年18.6%→2025年18.6% (変動なし)

残留率

大学 : 2016年25.7%→2025年29.5% (3.8ポイント上昇)
短期大学 : 2016年61.1%→2025年60.6% (0.5ポイント低下)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位青森 (221人)、2位宮城 (220人)、3位秋田 (126人)
短期大学 : 1位秋田 (17人)、2位宮城 (11人)、3位青森 (7人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位宮城 (847人)、2位東京 (519人)、3位青森 (249人)
短期大学 : 1位宮城 (60人)、2位青森 (18人)、3位東京 (16人)

岩手県



- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
- ・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
- ・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者したこと（浪人含）
- ・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

宮城県



学校数

大学 : 15 (国立 2・公立 1・私立 12)
短期大学 : 5 (私立 5)
専門学校 : 60 (公立 2・私立 58)

卒業者数

2016年20,204人→2025年17,568人 (2,636人減少)

進学者数

大学 : 2016年9,005人→2025年9,158人 (153人増加)
短期大学 : 2016年 756人→2025年 544人 (212人減少)
専門学校 : 2016年3,029人→2025年2,778人 (251人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年44.6%→2025年52.1% (7.5ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 3.7%→2025年 3.1% (0.6ポイント低下)
専門学校 : 2016年15.0%→2025年15.8% (0.8ポイント上昇)

残留率

大学 : 2016年57.4%→2025年55.1% (2.3ポイント低下)
短期大学 : 2016年77.0%→2025年85.3% (8.3ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く

大学 : 1位福島 (994人)、2位岩手 (847人)、3位山形 (785人)
短期大学 : 1位山形 (91人)、2位福島 (68人)、3位岩手 (60人)

入学者流出先

※地元は除く

大学 : 1位東京 (1,284人)、2位山形 (665人)、3位神奈川 (400人)
短期大学 : 1位東京 (22人)、2位山形 (13人)、3位岩手 (11人)

秋田県



学校数

大学 : 7 (国立 1・公立 3・私立 3)
短期大学 : 4 (私立 4)
専門学校 : 13 (公立 1・私立 12)

卒業者数

2016年8,881人→2025年6,824人 (2,057人減少)

進学者数

大学 : 2016年3,246人→2025年2,911人 (335人減少)
短期大学 : 2016年 620人→2025年 318人 (302人減少)
専門学校 : 2016年1,571人→2025年1,187人 (384人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.5%→2025年42.7% (6.2ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 7.0%→2025年 4.7% (2.3ポイント低下)
専門学校 : 2016年17.7%→2025年17.4% (0.3ポイント低下)

残留率

大学 : 2016年23.4%→2025年26.0% (2.6ポイント上昇)
短期大学 : 2016年51.8%→2025年55.4% (3.6ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く

大学 : 1位岩手 (105人)、2位宮城 (100人)、3位東京 (82人)
短期大学 : 1位北海道 (3人)、3位山形・東京 (2人)

入学者流出先

※地元は除く

大学 : 1位宮城 (496人)、2位東京 (383人)、3位青森 (185人)
短期大学 : 1位宮城 (43人)、2位山形 (26人)、3位青森 (19人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
- ・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
- ・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと（浪人含）
- ・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学したこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

	学校数 大学 : 8 (国立 1・公立 3・私立 4) 短期大学 : 3 (公立 1・私立 2) 専門学校 : 18 (公立 4・私立 14)
	卒業者数 2016年10,398人→2025年8,556人 (1,842人減少)
	進学者数 大学 : 2016年3,865人→2025年3,882人 (17人増加) 短期大学 : 2016年 640人→2025年 316人 (324人減少) 専門学校 : 2016年1,910人→2025年1,631人 (279人減少)
	進学率（現役） 大学 : 2016年37.2%→2025年45.4% (8.2ポイント上昇) 短期大学 : 2016年 6.2%→2025年 3.7% (2.5ポイント低下) 専門学校 : 2016年18.4%→2025年19.1% (0.7ポイント上昇)
	残留率 大学 : 2016年20.2%→2025年23.1% (2.9ポイント上昇) 短期大学 : 2016年66.8%→2025年52.2% (14.6ポイント低下)
	入学者流入元 ※地元は除く 大学 : 1位宮城 (665人)、2位福島 (201人)、3位岩手 (144人) 短期大学 : 1位福島 (29人)、2位秋田 (26人)、3位新潟 (15人)
	入学者流出先 ※地元は除く 大学 : 1位宮城 (785人)、2位東京 (577人)、3位新潟 (332人) 短期大学 : 1位宮城 (91人)、2位福島 (15人)、3位北海道・埼玉・東京・新潟 (6人)

・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）
・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料2】

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	青森県	952人	83.0%
2	岩手県	79人	6.9%
3	秋田県	57人	5.0%
4	北海道	41人	3.6%
5	宮城県	18人	1.6%
	全 体	1,147人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県等）	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	青森県	89.10%	88.30%	87.10%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	理・工学系			
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

別紙 2 の 1

【資料4】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2の2－1

大学学部学科等名：八戸工業大学工学部工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人員	49人	49人	49人	49人	49人	49人
	延べ人数	109人	92人	60人	74人	93人	86人
	志願者数	109人	92人	60人	73人	93人	85人
	受験者数	106人	87人	60人	72人	93人	84人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	3人	1人
	辞退者数	109人	92人	60人	74人	93人	86人
	志願者数	109人	92人	60人	73人	93人	85人
	受験者数	106人	87人	60人	72人	93人	84人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	1人	0人	2人	3人	1人	1人
	辞退者数	104人	86人	57人	69人	87人	81人
	入学者数	67人	67人	67人	67人	67人	67人
学校推薦型選抜	募集人員	67人	67人	67人	67人	67人	67人
	延べ人数	69人	83人	66人	52人	59人	66人
	志願者数	69人	83人	65人	52人	59人	66人
	受験者数	69人	83人	65人	52人	59人	66人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	辞退者数	69人	83人	66人	52人	59人	66人
	志願者数	69人	83人	65人	52人	59人	66人
	受験者数	69人	83人	65人	52人	59人	66人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	辞退者数	68人	83人	64人	51人	57人	65人
	入学者数	58人	58人	58人	58人	58人	58人
一般選抜	募集人員	58人	58人	58人	58人	58人	58人
	延べ人数	58人	74人	60人	28人	36人	51人
	志願者数	57人	73人	58人	25人	36人	50人
	受験者数	54人	71人	54人	22人	34人	47人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	1人	1人	3人	0人	2人	1人
	辞退者数	58人	74人	60人	28人	36人	51人
	志願者数	57人	73人	58人	25人	36人	50人
	受験者数	54人	71人	54人	22人	34人	47人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	6人	6人	6人	0人	6人	5人
	辞退者数	25人	30人	12人	6人	14人	17人
	入学者数	76人	76人	76人	76人	76人	76人
共通テスト利用入試	募集人員	187人	165人	126人	86人	84人	130人
	延べ人数	187人	165人	126人	86人	83人	129人
	志願者数	183人	162人	126人	86人	80人	127人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	3人	4人	8人	4人	2人	4人
	うち追加合格者数	187人	165人	126人	86人	84人	130人
	志願者数	187人	165人	126人	86人	83人	129人
	受験者数	183人	162人	126人	86人	80人	127人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	13人	12人	10人	6人	11人	10人
	辞退者数	64人	36人	29人	22人	23人	35人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人員	0人	2人	2人	2人	1人	1人
その他の特別選抜	延べ人数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
	志願者数	0人	2人	2人	1人	1人	1人
	受験者数	0人	1人	2人	1人	1人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
	志願者数	0人	2人	2人	1人	1人	1人
	受験者数	0人	1人	2人	1人	1人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	250人	250人	250人	250人	250人	250人
	募集人員	423人	416人	314人	242人	273人	334人
合計	延べ人数	422人	415人	311人	237人	272人	331人
	志願者数	412人	404人	307人	233人	267人	325人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	4人	5人	11人	5人	8人	7人
	うち追加合格者数	423人	416人	314人	242人	273人	334人
	志願者数	422人	415人	311人	237人	272人	331人
	受験者数	412人	404人	307人	233人	267人	325人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	20人	18人	16人	8人	21人	17人
	辞退者数	261人	236人	164人	149人	182人	198人
	入学者数						
	募集人員						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	入学者数						

2. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	250人	250人	250人	250人	250人	250人
入 学 定 員 充 足 率	1.04	0.94	0.66	0.60	0.73	0.79
歩 留 率	0.63	0.58	0.53	0.64	0.68	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【資料4】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2の2-2

大学学部学科等名：八戸工業大学工学部感性デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人員	11人	11人	11人	11人	11人	11人
	延べ人数	29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	29人	9人	16人	14人	16人	17人
学校推薦型選抜	募集人員	13人	13人	13人	13人	13人	13人
	延べ人数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
一般選抜	募集人員	12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	13人	8人	6人	3人	4人	7人
		13人	8人	6人	3人	4人	7人
		12人	7人	6人	3人	4人	6人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	13人	8人	6人	3人	4人	7人
		13人	8人	6人	3人	4人	7人
		12人	7人	6人	3人	4人	6人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	1人	2人	0人	0人	1人
	入学者数	7人	3人	0人	1人	3人	3人
共通テスト利用入試	募集人員	14人	14人	14人	14人	14人	14人
	延べ人数	17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	12人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	12人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	2人	1人
	入学者数	9人	10人	5人	4人	4人	6人
その他の特別選抜	募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	67人	62人	42人	46人	44人	52人
		67人	62人	42人	46人	44人	52人
		66人	60人	42人	46人	42人	51人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	67人	62人	42人	46人	44人	52人
		67人	62人	42人	46人	44人	52人
		66人	60人	42人	46人	42人	51人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		4人	2人	2人	1人	2人	2人
	入学者数	53人	39人	26人	36人	33人	37人

2. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
入学定員充足率	1.06	0.78	0.52	0.72	0.66	0.75
歩留率	0.80	0.65	0.62	0.78	0.79	0.73

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

八戸工業大学
「デザイン工学部 デザイン工学科」(仮称)
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和 8 年 3 月
株式会社システム環境研究所

調査概要

調査目的

令和9年4月開設予定の八戸工業大学「デザイン工学部 デザイン工学科（仮称）」の設置構想に関して、高校生からの進学需要を把握する。

調査概要

- 調査対象：受験実績や入学実績のある高等学校
- 調査地域：青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 調査方法：高等学校留め置き
- 調査時期：令和7年10月～令和8年1月
- 回収校数：2年生／31校
1年生／32校
- 集計人数：2年生／2,940人
1年生／2,938人

調査項目

- 学年
- 卒業後の進路
- 進学を希望する場合の大学等の設置者
- 興味のある学問分野
- 新設組織の受験希望
- 新設組織に合格した場合の入学希望

【資料5】

学年

学年

○学年について、「1年生」と回答した者が2,938人、「2年生」と回答した者が2,940人となっている。

問1 学年

【設問】

学年

No.	カテゴリ	件数／人
1	1年生	2,938
2	2年生	2,940

【2年生】卒業後の進路

卒業後の進路

○卒業後の進路について、「大学」と回答した者が総回答数 3,334 人の約 51.6%にあたる 1,721 人、「短期大学」と回答した者が総回答数 3,334 人の約 9.0%にあたる 301 人、「専門職大学」と回答した者が総回答数 3,334 人の約 3.9%にあたる 131 人、「専門職短期大学」と回答した者が総回答数 3,334 人の約 1.0%にあたる 33 人となっている。

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学	1,721	51.6
2	短期大学	301	9.0
3	専門職大学	131	3.9
4	専門職短期大学	33	1.0
5	専門学校	467	14.0
6	就職	635	19.0
7	その他	38	1.1
	未回答・不明	8	0.2
	合計	3,334	100.0

注)総回答数に対する割合

【2年生】進学を希望する場合の大学等の設置者

進学を希望する場合の大学等の設置者

○進学を希望する場合の大学等の設置者について、「国立」と回答した者が総回答数 2,642 人の約 32.1%にあたる 848 人、「公立」と回答した者が総回答数 2,642 人の約 43.8%にあたる 1,157 人、「私立」と回答した者が総回答数 2,642 人の約 23.6%にあたる 623 人となっている。

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	国立	848	32.1
2	公立	1,157	43.8
3	私立	623	23.6
	未回答・不明	14	0.5
	合計	2,642	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

注) 総回答数に対する割合

【2年生】興味のある学問分野

興味のある学問分野

○高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野について、新設組織に該当する学問分野である「土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン）」と回答した者は総回答数 3,132 人の約 12.5%にあたる 390 人、「感性デザイン学」と回答した者は総回答数 3,132 人の約 6.4%にあたる 199 人となっている。

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学等	175	5.6
2	法学・政治学	117	3.7
3	商学・経済学	214	6.8
4	社会学	119	3.8
5	数学・物理・化学・生物等	123	3.9
6	機械工学	346	11.0
7	電気通信工学	395	12.6
8	土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン）	390	12.5
9	感性デザイン学	199	6.4
10	農学・農芸化学等	72	2.3
11	医学・歯学等	136	4.3
12	薬学・看護等	174	5.6
13	家政学・食物学・住居学等	57	1.8
14	教育学	226	7.2
15	美術・デザイン・音楽等	225	7.2
16	その他	158	5.0
	未回答・不明	6	0.2
	合計	3,132	100.0

注）問2で①～④を選択した者のみ集計

注）総回答数に対する割合

【2年生】新設組織の受験希望の有無

新設組織の受験希望の有無

○八戸工業大学にデザイン工学部デザイン工学科が開設された場合の受験希望について、「第一志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,081 人の約 5.3%にあたる 111 人、「第二志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,081 人の約 0.9%にあたる 19 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が回答者数 2,081 人の約 2.9%にあたる 61 人、「受験しない」と回答した者が回答者数 2,081 人の約 90.5%にあたる 1,883 人となっている。

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「デザイン工学部 デザイン工学科」が開設された場合、受験を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	第一志望として受験する	111	5.3
2	第二志望として受験する	19	0.9
3	第三志望以降として受験する	61	2.9
4	受験しない	1,883	90.5
	未回答・不明	7	0.3
	合計	2,081	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

【2年生】新設組織に合格した場合の入学希望の有無

新設組織に合格した場合の入学希望の有無

○八戸工業大学のデザイン工学部デザイン工学科を受験して合格した場合の入学希望について、「入学する」と回答した者が回答者数 191 人の約 61.3%にあたる 117 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が回答者数 191 人の約 34.0%にあたる 65 人、「入学しない」と回答した者が回答者数 191 人の約 4.7%にあたる 9 人となっている。

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、①～③を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「デザイン工学部 デザイン工学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学する	117	61.3
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	65	34.0
3	入学しない	9	4.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	191	100.0

注) 問5で①～③を選択した者のみ集計

【2年生】新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

○卒業後の進路を「大学」、進学を希望する場合の大学等の設置者を「私立」、興味のある学問分野を「土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン）」、「感性デザイン学」、新設組織の受験希望を「第一志望として受験する」、新設組織に合格した場合の入学希望を「入学する」と回答した者は101人となっている。

回答者数 (合計)	問1 卒業後の進路	問2 進学希望の 大学設置者	問3 興味のある 学問分野	問4 新設組織の 受験希望有無	問5 合格した場合の 入学希望有無
2,940 名	①大学 1,721 名 (58.5%)	③私立 559 名 (32.5%)	⑧土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン） ⑨感性デザイン学のいずれかを選択 131 名 (23.4%) ※新設組織に該当する学問分野を選択した者のみ記載	うち、	うち、
				① 第一希望として受験する 101 名 (77.1%)	①入学する 101 名 (100.0%) ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				② 第二希望として受験する 2 名 (1.5%)	①入学する 2 名 (100.0%) ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				③ 第三希望として受験する 1 名 (0.8%)	①入学する 1 名 (100.0%) ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				④受験しない	

※クロス集計の結果：入学見込者
101 名

【1年生】卒業後の進路

卒業後の進路

○卒業後の進路について、「大学」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 53.2%にあたる 1,959 人、「短期大学」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 8.6%にあたる 317、「専門職大学」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 4.7%にあたる 173 人、「専門職短期大学」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 2.1%にあたる 78 人となっている。

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学	1,959	53.2
2	短期大学	317	8.6
3	専門職大学	173	4.7
4	専門職短期大学	78	2.1
5	専門学校	495	13.4
6	就職	596	16.2
7	その他	59	1.6
	未回答・不明	7	0.2
	合計	3,684	100.0

注)総回答数に対する割合

【1年生】進学を希望する場合の大学等の設置者

進学を希望する場合の大学等の設置者

○進学を希望する場合の大学等の設置者について、「国立」と回答した者が総回答数 2,964 人の約 33.9%にあたる 1,005 人、「公立」と回答した者が総回答数 2,964 人の約 44.4%にあたる 1,315 人、「私立」と回答した者が総回答数 2,964 人の約 21.0%にあたる 622 人となっている。

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	国立	1,005	33.9
2	公立	1,315	44.4
3	私立	622	21.0
	未回答・不明	22	0.7
	合計	2,964	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

注) 総回答数に対する割合

【1年生】興味のある学問分野

興味のある学問分野

○高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野について、新設組織に該当する学問分野である「土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン）」と回答した者は総回答数 4,113 人の約 17.3%にあたる 710 人、「感性デザイン学」と回答した者は総回答数 4,113 人の約 5.6%にあたる 229 人となっている。

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学等	178	4.3
2	法学・政治学	110	2.7
3	商学・経済学	204	5.0
4	社会学	81	2.0
5	数学・物理・化学・生物等	171	4.2
6	機械工学	429	10.4
7	電気通信工学	507	12.3
8	土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン）	710	17.3
9	感性デザイン学	229	5.6
10	農学・農芸化学等	73	1.8
11	医学・歯学等	150	3.6
12	薬学・看護等	202	4.9
13	家政学・食物学・住居学等	191	4.6
14	教育学	247	6.0
15	美術・デザイン・音楽等	367	8.9
16	その他	246	6.0
	未回答・不明	18	0.4
	合計	4,113	100.0

注）問2で①～④を選択した者のみ集計

注）総回答数に対する割合

【1年生】新設組織の受験希望の有無

新設組織の受験希望の有無

○八戸工業大学にデザイン工学部デザイン工学科が開設された場合の受験希望について、「第一志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,337 人の約 5.1%にあたる 119 人、「第二志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,337 人の約 2.6%にあたる 60 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が回答者数 2,337 人の約 6.1%にあたる 142 人、「受験しない」と回答した者が回答者数 2,337 人の約 85.3%にあたる 1,994 人となっている。

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「デザイン工学部 デザイン工学科」が開設された場合、受験を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	第一志望として受験する	119	5.1
2	第二志望として受験する	60	2.6
3	第三志望以降として受験する	142	6.1
4	受験しない	1,994	85.3
	未回答・不明	22	0.9
	合計	2,337	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

【1年生】新設組織に合格した場合の入学希望の有無

新設組織に合格した場合の入学希望の有無

○八戸工業大学のデザイン工学部デザイン工学科を受験して合格した場合の入学希望について、「入学する」と回答した者が回答者数 321 人の約 39.6%にあたる 127 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が回答者数 321 人の約 53.9%にあたる 173 人、「入学しない」と回答した者が回答者数 321 人の約 6.5%にあたる 21 人となっている。

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、①～③を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「デザイン工学部 デザイン工学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学する	127	39.6
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	173	53.9
3	入学しない	21	6.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	321	100.0

注) 問5で①～③を選択した者のみ集計

【1年生】新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

○卒業後の進路を「大学」、進学を希望する場合の大学等の設置者を「私立」、興味のある学問分野を「土木建築工学（土木工学・建築工学・建築デザイン）」、「感性デザイン学」、新設組織の受験希望を「第一志望として受験する」、新設組織に合格した場合の入学希望を「入学する」と回答した者は103人となっている。

回答者数 (合計)	問1 卒業後の進路	問2 進学希望の 大学設置者	問3 興味のある 学問分野	問4 新設組織の 受験希望有無	問5 合格した場合の 入学希望有無
2,938 名	うち、 ①大学 1,959 名 (66.7%)	うち、 ③私立 538 名 (27.5%)	うち、 ⑧土木建築工 学（土木工 学・建築工 学・建築デザ イン） ⑨感性デザイ ン学 のいずれかを 選択 149 名 (27.7%) ※新設組織に該 当する学問分野 を選択した者の み記載	うち、	うち、
				① 第一希望と して受験する 103 名 (69.1%)	①入学する 103 名 (100.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0 名 (0.0%)
					③入学しない 0 名 (0.0%)
				② 第二希望と して受験する 9 名 (6.0%)	①入学する 0 名 (0.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 9 名 (100.0%)
					③入学しない 0 名 (0.0%)
				③ 第三希望と して受験する 15 名 (10.1%)	①入学する 3 名 (20.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 11 名 (73.3%)
				④受験しない	③入学しない 1 名 (6.7%)

※クロス集計の結果：入学見込者
103 名

参考資料 進学需要調査関係

- 進学需要等に関するアンケート調査票
- 進学需要等に関するアンケート調査依頼先一覧
- デザイン工学部 デザイン工学科 概要

【資料5】

八戸工業大学 デザイン工学部 デザイン工学科(仮称) 進学需要等に関するアンケート調査(高校生)

八戸工業大学では、持続可能な地域社会づくりに貢献できる感性デザインや建築デザインに関する専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成にむけた教育研究体制の一層の充実を目指して、既設の工学部と感性デザイン学部を発展的に改組し、新たに「デザイン工学部 デザイン工学科(仮称)」として設置することを検討しております。このアンケート調査は、高校生の皆さんに、卒業後の進路等についてお聞きし、「デザイン工学部 デザイン工学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答は、別紙のリーフレットをご覧ください。設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

別紙補足事項：デザイン工学部 デザイン工学科アドミッション・ポリシー

デザイン工学科は、デザイン活動の基礎となる知識と技術を踏まえ、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力、地域の暮らしの豊かさと多様なあるべき姿を構想する力、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる力、論理的・創造的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題を発見・解決に、倫理的責任を持ってあたることができる人材の育成を目指しています。

デザイン工学科は、感性デザイン、建築デザイン、国土デザインの3プログラムの教育体制を取っており、デザイン工学科の目的ならびにそれぞれのプログラムの学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的かつ自律的に取り組む人を受け入れます。

問1 学年

【回答欄】

【設問】

学年

【選択肢】

1 1年生

2 2年生

1	①	②
---	---	---

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

【選択肢】

1 大学

2 短期大学

3 専門職大学

4 専門職短期大学

5 専門学校

6 就職

7 その他

2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
---	---	---	---	---	---	---	---

裏面に進んでください ⇒

【資料5】

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、1～4を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

3	①	②	③
---	---	---	---

【選択肢】

- 1 国立 2 公立 3 私立

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(複数選択可)

4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
---	---	---	---	---	---	---

【選択肢】

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 文学・史学・哲学等 | 2 法学・政治学 |
| 3 商学・経済学 | 4 社会学 |
| 5 数学・物理・化学・生物等 | 6 機械工学 |
| 7 電気通信工学 | 8 土木建築工学(土木工学・建築工学・建築デザイン) |
| 9 感性デザイン学 | 10 農学・農芸化学 |
| 11 医学・歯学等 | 12 薬学・看護学等 |
| 13 家政学・食物学・住居学等 | 14 教育学 |
| 15 美術・デザイン・音楽等 | 16 その他 |

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「デザイン工学部 デザイン工学科」が開設された場合、受験を希望しますか。

次より一つ選択してください。

5	①	②	③	④
---	---	---	---	---

【選択肢】

- 1 第一志望として受験する 2 第二志望として受験する
3 第三志望以降として受験する 4 受験しない

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、1～3を選択した方に質問です。

6	①	②	③
---	---	---	---

八戸工業大学の「デザイン工学部 デザイン工学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

【選択肢】

- 1 入学する 2 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
3 入学しない

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

【資料5】

進学需要に関するアンケート調査依頼先一覧

2年生

都道府県	高等学校名	住所
青森県	青森県立青森西高等学校	青森県青森市新城字平岡266-20
青森県	青森県立弘前高等学校	青森県弘前市新寺町1-1
青森県	青森県立弘前南高等学校	青森県弘前市大開4-1-1
青森県	青森県立八戸北高等学校	青森県八戸市大久保町道8-3
青森県	青森県立木造高等学校	青森県つがる市木造日向73-2
青森県	青森県立野辺地高等学校	青森県上北郡野辺地町松ノ木106-1
青森県	青森県立三本木高等学校	青森県十和田市西五番町7-1
青森県	青森県立三沢高等学校	青森県三沢市松園町1-1
青森県	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市大湊字大近川44-84
青森県	青森県立弘前工業高等学校	青森県弘前市馬屋町6-2
青森県	青森県立八戸工業高等学校	青森県八戸市江陽1-2-27
青森県	青森県立十和田工業高等学校	青森県十和田市三本木字下平215-1
青森県	青森県立青森商業高等学校	青森県青森市戸山字安原7-1
青森県	青森県立八戸商業高等学校	青森県八戸市十日市字塚ノ下3-1
青森県	青森県立八戸西高等学校	青森県八戸市尻内町字中根市14
青森県	青森県立青森北高等学校	青森県青森市羽白字富田80-7
青森県	青森県立八戸中央高等学校	青森県八戸市諏訪1-2-17
青森県	青森県立黒石高等学校	青森県黒石市西ヶ丘65
青森県	青森県立五所川原工科高等学校	青森県五所川原市湊船越192
青森県	柴田学園大学附属柴田学園高等学校	青森県弘前市豊原1-2-1
青森県	八戸工業大学第一高等学校	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
青森県	五所川原第一高等学校	青森県五所川原市元町42
青森県	八戸工業大学第二高等学校	青森県八戸市妙字大開67
岩手県	岩手県立北上翔南高等学校	岩手県北上市相去町高前檀13
岩手県	岩手県立大東高等学校	岩手県一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
宮城県	宮城県石巻高等学校	宮城県石巻市大手町3-15
宮城県	東陵高等学校	宮城県気仙沼市大峠山1-1
秋田県	秋田県立鹿角高等学校	秋田県鹿角市花輪字明堂長根12
山形県	山形県立米沢東高等学校	山形県米沢市丸の内2-5-63
福島県	福島県立若松商業高等学校	福島県会津若松市米代1-3-31
福島県	福島県立いわき翠の杜高等学校	福島県いわき市内郷綴町板宮2番地

計31校

学生確保（資料5）

【資料5】

進学需要に関するアンケート調査依頼先一覧

1年生

都道府県	高等学校名	住所
青森県	青森県立青森西高等学校	青森県青森市新城字平岡266-20
青森県	青森県立弘前高等学校	青森県弘前市新寺町1-1
青森県	青森県立弘前南高等学校	青森県弘前市大開4-1-1
青森県	青森県立八戸北高等学校	青森県八戸市大久保町道8-3
青森県	青森県立木造高等学校	青森県つがる市木造日向73-2
青森県	青森県立野辺地高等学校	青森県上北郡野辺地町松ノ木106-1
青森県	青森県立三本木高等学校	青森県十和田市西五番町7-1
青森県	青森県立三沢高等学校	青森県三沢市松園町1-1
青森県	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市大湊字大近川44-84
青森県	青森県立弘前工業高等学校	青森県弘前市馬屋町6-2
青森県	青森県立八戸工業高等学校	青森県八戸市江陽1-2-27
青森県	青森県立十和田工業高等学校	青森県十和田市三本木字下平215-1
青森県	青森県立青森商業高等学校	青森県青森市戸山字安原7-1
青森県	青森県立三沢商業高等学校	青森県三沢市春日台2-154
青森県	青森県立八戸商業高等学校	青森県八戸市十日市字塚ノ下3-1
青森県	青森県立八戸西高等学校	青森県八戸市尻内町字中根市14
青森県	青森県立青森北高等学校	青森県青森市羽白字富田80-7
青森県	青森県立八戸中央高等学校	青森県八戸市諏訪1-2-17
青森県	青森県立黒石高等学校	青森県黒石市西ヶ丘65
青森県	青森県立五所川原工科高等学校	青森県五所川原市湊船越192
青森県	柴田学園大学附属柴田学園高等学校	青森県弘前市豊原1-2-1
青森県	八戸工業大学第一高等学校	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
青森県	五所川原第一高等学校	青森県五所川原市元町42
青森県	八戸工業大学第二高等学校	青森県八戸市妙字大開67
岩手県	岩手県立大東高等学校	岩手県一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
宮城県	宮城県石巻高等学校	宮城県石巻市大手町3-15
宮城県	宮城県石巻工業高等学校	宮城県石巻市貞山5-1-1
宮城県	宮城県石巻西高等学校	宮城県東松島市赤井字七反谷地27
宮城県	宮城県柴田高等学校	宮城県柴田郡柴田町大字本船迫字十八津入7-3
山形県	山形県立米沢東高等学校	山形県米沢市丸の内2-5-63
福島県	福島県立若松商業高等学校	福島県会津若松市米代1-3-31
福島県	福島県立いわき翠の杜高等学校	福島県いわき市内郷綴町板宮2番地

計32校

学生確保（資料5）

【資料5】

八戸工業大学 デザイン工学部 デザイン工学科（設置構想中）概要 【令和9（2027）年4月 開設予定】

○学部等の概要

- ・学部学科：デザイン工学部 デザイン工学科（男女共学）
学位：学士（デザイン工学）、学位の分野：工学関係
- ・学生定員：入学定員100名／収容定員400名
- ・開設時期：令和9（2027）年4月
- ・設置場所：八戸市大字妙字大開88番地1号
- ・アクセス：JR 東北新幹線「八戸駅」から JR 八戸線に乗り換え「本八戸駅」下車、「本八戸駅」より大学までバスで約35分、タクシーで約20分
JR 東北新幹線「八戸駅」からタクシーで大学直行約30分

○教育研究上の理念・目的

総合教養、数理・データサイエンス・AI 及び自然科学・デザイン学の基礎を習得する。そして、地域社会との繋がりを重視した共創教育を通じて専門分野の基盤となる素養を身につける。さらに、感性デザイン、建築デザイン及び国土デザインのいずれかの専門知識を身につけるとともに、幅広い科目群の学習により、暮らしと環境・インフラ等をデザインするための基礎となる知識と技術の応用・展開力を身につけ、安全・安心かつ豊かな地域づくりに貢献することを教育研究上の目的とする。

○学びの特徴

総合教養と多面的な視野、デザイン思考や自然科学等の専門分野の基盤となる基礎知識、社会人・職業人として必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術への関心を深める。そして、感性デザイン、建築デザイン及び国土デザインのいずれかの専門分野において応用展開能力を習得し、持続可能な地域づくりに貢献できる素養を身につける。

○育成する人材像

地域づくり分野におけるデザイン活動の基礎となる知識と技術、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、地域の暮らしの豊かさと多様なあるべき姿を構想する力を有し、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成する。

○想定される卒業後の進路

デザイン事務所（空間）、製造プロダクト分野、工芸・ものづくり分野、建築設計事務所、ハウスメーカー、ゼネコン、建設・環境系コンサルタント、道路・鉄道・電力系インフラ企業、公務員・教員等を目指し、北東北を中心とした地域社会の発展に貢献する。

○学生納付金（納付金は予定金額のため、変更となる可能性があります。）

初年度納付金 1,543,000 円（入学金 250,000 円 授業料等 1,272,000 円 入学検定料 30,000 円他）

○同系統の学びのある大学・学部・学科・課程

- ・東北工業大学
工学部 電気電子工学課程・情報通信工学課程・都市工学課程・環境応用化学課程
建築学部 建築学科
ライフデザイン学部 産業デザイン学科・生活デザイン学科・経営デザイン学科
- ・東北学院大学
工学部 機械知能工学科・電気電子工学科・環境建設工学科

学生確保（資料5）

八戸工業大学
「デザイン工学部 デザイン工学科」(仮称)
人材需要等に関するアンケート調査
結果報告書
【関連企業等対象調査】

令和 8 年 3 月
株式会社システム環境研究所

調査概要

調査目的

令和9年4月開設予定の八戸工業大学「デザイン工学部 デザイン工学科（仮称）」の設置構想に関して、関連企業等からの人材需要を把握する。

調査概要

- 調査対象：求人実績や採用実績のある関連企業等
- 調査地域：青森県、北海道、岩手県、秋田県、宮城県、栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、新潟県、長野県、愛知県、京都府、大阪府、岐阜県、香川県
- 調査方法：オンラインによる調査
- 調査時期：令和7年12月～令和8年1月
- 依頼件数：317件
- 回答件数：129件

調査項目

- 所在地
- 人材の採用見込み
- 養成する人材の必要性
- 卒業生の採用
- 卒業生の採用人数

【資料6】

所在地

所在地

○所在地について、「青森県」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 46.5%にあたる 60 件、「東京都」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 24.8%にあたる 32 件、「その他」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 28.7%にあたる 37 件となっている。

1. 所在地

【設問】

貴社の所在地について、お尋ねいたします。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	青森県	60	46.5
2	東京都	32	24.8
3	その他	37	28.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

人材の採用見込み

人材の採用採用見込み

○人材の採用見込みについて、「増加すると思う」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 75.2%にあたる 97 件、「増加すると思わない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 24.8%にあたる 32 件となっている。

2. 人材の採用見込み

【設問】

今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	増加すると思う	97	75.2
2	増加すると思わない	32	24.8
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

養成する人材の必要性

養成する人材の必要性

○八戸工業大学のデザイン工学部デザイン工学科で養成する人材について、「必要性を感じる」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 93.8%にあたる 121 件、「必要性を感じない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 6.2%にあたる 8 件となっている。

3. 養成する人材の必要性

【設問】

八戸工業大学の養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

デザイン工学部デザイン工学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	必要性を感じる	121	93.8
2	必要性を感じない	8	6.2
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

卒業生の採用

卒業生の採用

○八戸工業大学のデザイン工学部デザイン工学科で学んだ卒業生の採用について、
「採用したいと思う」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 83.7%にあたる 108 件、「採用したいと思わない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 16.3%にあたる 21 件となっている。

4. 卒業生の採用

【設問】

八戸工業大学で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

デザイン工学部デザイン工学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	採用したいと思う	108	83.7
2	採用したいと思わない	21	16.3
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

卒業生の採用人数の見込み

卒業生の採用人数の見込み

○八戸工業大学のデザイン工学部デザイン工学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、「1人」と回答した企業等が回答件数 108 件の約 25.0%にあたる 27 件、「2人」と回答した企業等が回答件数 108 件の約 10.2%にあたる 11 件、「3人以上」と回答した企業等が回答件数 108 件の約 9.3%にあたる 10 件、「人数は未定」と回答した企業等が回答件数 108 件の約 55.6%にあたる 60 件となっている。

5. 卒業生の採用人数の見込み

【設問】

八戸工業大学で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。

デザイン工学部デザイン工学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	1人	27	25.0
2	2人	11	10.2
3	3人以上	10	9.3
4	人数は未定	60	55.6
	未回答・不明	0	0.0
	合計	108	100.0

卒業生の採用人数の見込み(クロス集計)

卒業生の採用人数の見込み(クロス集計)

○新設組織の養成する人材を「必要性を感じる」、新設組織で学んだ卒業生の採用を「採用したいと思う」、新設組織で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みを「1人」、「2人」、「3人以上」、「人数は未定」と回答した企業等は108件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答した採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると139人となる。

No.	カテゴリ	件数／件	人数／人
1	必要性を感じる×採用したいと思う×1人	27	27
2	必要性を感じる×採用したいと思う×2人	11	22
3	必要性を感じる×採用したいと思う×3人	10	30
4	必要性を感じる×採用したいと思う×人数は未定	60	60
	合計	108	139

参考資料 人材需要調査関係

- 人材需要等に関するアンケート調査票
- 人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧
- 学部学科紹介リーフレット

【資料6】

八戸工業大学 設置構想中の学部における 人材需要等に関する アンケート調査

対象：人事採用担当者様

※アンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用いることとして
おり、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答する

貴社の所在地について、お尋ねいたします。

【必ず回答】

☐ 青森県

☐ 東京都

☐ その他（具体的に）

今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

【必ず回答】

☐ 増加と思う

☐ 増加と思わない

■以降の質問は、適宜、学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。
別画面でリーフレットが開きます。

→ [リーフレットを閲覧](#)

【資料6】

八戸工業大学の養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

先進工学部先進工学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

八戸工業大学で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

先進工学部先進工学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

【資料6】

八戸工業大学で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

先進工学部先進工学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

【資料6】

八戸工業大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。
先進工学部先進工学科

0文字

総合情報学部総合情報学科

0文字

デザイン工学部デザイン工学科

0文字

送信

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
1	岩田地崎建設(株)	51	(株)ビー・エム
2	北海道旅客鉄道(株)	52	アルバック東北(株)
3	(株)ツルハ	53	(株)大山建工
4	ハコレコドットコム(株)	54	東北医療福祉事業協同組合(SGグループ)
5	日本原燃(株)	55	富士電機津軽セミコンダクタ(株)
6	(株)サンデー	56	(株)七洋
7	(株)青森芝浦電子	57	(株)中野グループ
8	青森日揮プランテック(株)	58	(株)ユニバース
9	(株)ジェイテック	59	(株)河原木電業
10	六ヶ所エンジニアリング(株)	60	(株)丸大サクラ井薬局
11	田中建設(株)	61	日本原燃分析(株)
12	プライフーズ(株)	62	(株)青森クリエイト
13	東和電機工業(株)	63	丸喜(株)齋藤組
14	(株)ムジコ・クリエイト	64	(株)吉田産業
15	(株)ハチカン	65	東北化学薬品(株)
16	日本フードパッカー(株)	66	広和計装(株)
17	(株)ササキコーポレーション	67	(株)鹿内組
18	トヨタカローラ八戸(株)	68	弘前航空電子(株)
19	(株)高橋製作所	69	(株)ヘリテージホーム
20	(株)石上建設	70	紅屋商事(株)
21	青い森信用金庫	71	(株)松本工務店
22	穂積建設工業(株)	72	レガロホーム(株)
23	(株)サンライズ・エー・イー	73	環境保全(株)
24	(株)石川設計	74	(株)セイシンハイテック
25	日本ホワイトファーム(株)	75	青森県信用組合
26	(株)藤本建設	76	(株)齋藤建設
27	(株)福萬組	77	青森オリンパス(株)
28	(株)八洲建築設計事務所	78	(株)アイティコワーク
29	高周波鑄造(株)	79	(株)ライフスタイルカンパニー
30	(株)ザックス	80	小幡建設工業(株)
31	(株)IGAメックス	81	青森リバーテクノ(株)
32	太子食品工業(株)	82	(株)角弘
33	(株)サン・コンピュータ	83	(株)デーリー東北新聞社
34	(株)大進建設	84	(株)プロクレアホールディングス
35	八戸缶詰(株)	85	(株)テクノル
36	(株)田中組	86	生活協同組合コープあおもり
37	青森トヨタ自動車(株)	87	(株)吉田管財
38	(株)田名部組	88	青森トヨペット(株)
39	大平洋金属(株)	89	(株)といず不動産
40	(株)柏崎組	90	(株)ホクエツ東北
41	八戸液化ガス(株)	91	(株)コサカ技研
42	(株)青森電子計算センター	92	(株)中綱組
43	寺下建設(株)	93	八戸通運(株)
44	(株)RABサービス	94	(株)金入
45	(株)第一ホーム	95	八戸ガス(株)
46	(株)共同物流サービス アイティークレスト事業部	96	タナカホーム(株)
47	(株)マエダ	97	マルヨ水産(株)
48	(株)サンライズエンジニアリング	98	上北建設(株)
49	三八五流通(株)	99	(株)大坂組
50	アール・エー・ビー開発(株)	100	(株)ハシモトホーム

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
101	青森マツダ自動車(株)	151	東北発電工業(株)
102	階上キューピー(株)	152	仙建工業(株)
103	(株)ほくとう	153	東北電力(株)
104	環境技術(株)	154	(株)日立ソリューションズ東日本
105	青森朝日放送	155	ホシザキ東北(株)
106	青森宝栄工業(株)	156	トヨタ自動車東日本(株)
107	東北グリーンターミナル(株)	157	古川電気工業(株)
108	(株)エービッツ	158	(株)ホクエツ
109	(株)ビジネスサービス	159	大和電設工業(株)
110	(株)八戸テレビ放送	160	株式会社ダンロップタイヤ 東北カンパニー
111	アンデス電気(株)	161	Astemo仙台(株)
112	武輪水産(株)	162	(株)阿部長商店
113	エプソンアトミックス(株)	163	みちのくコンサルタント(株)
114	北日本計装(株)	164	(株)ホンダテクノフォート
115	株式会社ライトカフェU.	165	栃木セキスイハイム(株)
116	宮城建設(株)	166	(株)アセンド
117	(株)平野組	167	検査開発(株)
118	(株)タカヤ	168	(株)日立パワーソリューションズ
119	樋下建設(株)	169	(株)NESI
120	(株)ニュートン	170	(株)ナカヨ
121	イワフジ工業(株)	171	UDトラックス(株)
122	(公財)岩手県下水道公社	172	(株)前澤エンジニアリングサービス
123	盛岡セイコー工業(株)	173	(株)温泉道場
124	(株)IBCソフトアルファ	174	川口土木建築工業(株)
125	北良(株)	175	(株)宝幸
126	(株)アイシーエス	176	美和電気工業(株)
127	(株)めんこいメディアブレーション	177	(株)ワイ・デー・ケー
128	(株)佐々木組	178	SGモータース(株)
129	(株)中館建設	179	グローブシップ(株)
130	キオクシア岩手(株)	180	(独)自動車技術総合機構
131	高惣建設(株)	181	(株)ミライト・ワン
132	(株)岩本電機	182	(株)メイテックフィルダーズ
133	花巻温泉(株)	183	(株)不動テトラ
134	(株)十文字チキンカンパニー	184	建装工業(株)
135	(株)小原建設	185	三菱電機プラントエンジニアリング(株)
136	川口印刷工業(株)	186	りんかい日産建設(株)
137	日本住宅(株)	187	東日本旅客鉄道(株)
138	白石食品工業(株)	188	マルゼン工業(株)
139	いわて生活協同組合	189	(株)BREXA Technology
140	イオン東北(株)	190	タキゲン製造(株)
141	小坂製錬(株)	191	(株)エス・エヌ・シー
142	(株)菅与組	192	(株)エヌ・ティ・ティエムイー
143	(株)宮腰デジタルシステムズ	193	山九プラントテクノ(株)
144	秋田印刷製本(株)	194	日本電設工業(株)
145	(株)日情秋田システムズ	195	(株)アビリカ
146	羽後設備(株)	196	岡三リビック(株)
147	宮腰精機(株)	197	(株)NTT東日本ー南関東
148	(株)TTK	198	日本道路(株)
149	(株)ユアテック	199	前田道路(株)
150	(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	200	エス・イー・シーエレベーター(株)

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
201	(株)きんでん	251	(株)ライトカフェ
202	(株)エイジェック	252	(株)ディックソリューションエンジニアリング
203	佐藤工業(株)	253	東京水道(株)
204	(株)レソリューション	254	(株)一条工務店
205	日鉄テックスエンジ(株)	255	(株)関電工
206	(株)アーネストワン	256	(株)丸藤シートパイル
207	ニューロン工業(株)	257	(株)LIXIL
208	東京鉄鋼(株)	258	山崎製パン(株)
209	サクサ(株)	259	(株)弘電社
210	(株)フォリウム	260	昭和アステック(株)
211	UTグループ(株)	261	新日本空調(株)
212	西松建設(株)	262	(株)村上商会
213	(株)ライテック	263	東芝システムテクノロジー(株)
214	内外施設工業(株)	264	(株)日本マイクロリンク
215	(株)テクノ菱和	265	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング
216	(株)J-POWERハイテック	266	(株)来住野工務店
217	三和電子(株)	267	日立Astemo(株)
218	パーソルクロステクノロジー(株)	268	(株)アディスミューズ
219	マネックス証券(株)	269	合同酒精(株)
220	東光電気工事(株)	270	青木あすなろ建設(株)
221	(株)大泉製作所	271	三菱ケミカル物流(株)
222	リコージャパン(株)	272	(株)ウィルオブ・コンストラクション
223	(株)ビクソン	273	住友林業(株)
224	東京パワーテクノロジー(株)	274	松井建設(株)
225	(株)熊谷組	275	川崎圧延(株)
226	(株)HEXELWorks	276	前田建設工業(株)
227	長谷川体育施設(株)	277	ALSOK(株)
228	(株)フォーラムエンジニアリング	278	大林道路(株)
229	(株)日本ハウスホールディングス	279	(株)JFEプラントエンジ
230	(株)竹中土木	280	鉄建建設(株)
231	SUBARUテクノ(株)	281	エヌエス環境(株)
232	三菱電機ビルソリューションズ(株)	282	東テク(株)
233	(株)エス・イー・シー・ハイテック	283	キヤノンITソリューションズ(株)
234	(株)ジェイテック	284	キューピータマゴ(株)
235	渡辺パイプ(株)	285	東京電力ホールディングス(株)
236	セコム(株)	286	グローブライド(株)
237	REGAIN GROUP(株)	287	コマツカスタマーサポート(株)
238	東日本電気エンジニアリング(株)	288	ナビオコンピュータ(株)
239	東洋システム開発(株)	289	J-POWERジェネレーションサービス(株)
240	櫻井工業(株)	290	(株)NIPPO
241	ニチレキ(株)	291	日本データスキル(株)
242	太平電業(株)	292	(株)アルトナー
243	TDK(株)	293	富士電機E&C(株)
244	飛島建設(株)	294	大蔵工業(株)
245	五洋建設(株)	295	(株)ツガワ
246	日本国土開発(株)	296	ハル・エンジニアリング(株)
247	(株)ホーク・ワン	297	桜総業(株)
248	若築建設(株)	298	スズキ(株)
249	(株)メンバーズ	299	(株)コメリ
250	清水建設(株)	300	(株)NS・コンピュータサービス

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

[illegible]

学生確保⁴（資料6）

総合情報学部 総合情報学科

先進工学部 先進工学科

デザイン工学部 デザイン工学科

仮称 | 設置構想中 |

※設置計画は予定であり、変更する場合があります

○ACCESS

- JR東北新幹線「八戸駅」からJR八戸線に乗り換え「本八戸駅」下車。
「本八戸駅」より大学までバスで約35分、タクシーで約20分。
- JR東北新幹線「八戸駅」よりタクシーで大学直行約30分。

新幹線（最短乗車時間）

- 東京駅～八戸駅 2時間44分
- 盛岡駅～八戸駅 27分
- 仙台駅～八戸駅 1時間9分
- 新青森駅～八戸駅 23分
- 新青森駅～八戸駅 1時間22分

バス（本八戸駅から大学まで約35分）

- 八戸市営バス
・本八戸駅から「工業大学」行き、または「八戸学院大学」行きに乗車、「工業大学前」下車。
・「八戸中心街ターミナル（八日町）」から「工業大学」行き、または「八戸学院大学」行きに乗車、「工業大学前」下車。
- 南部バス
本八戸駅から「随上（はしかみ）中学校前」行き、または「随上庁舎前」行き「工業大学前」で下車。
※八戸市営バス、南部バスどちらも八戸駅から八戸中心街間シャトルバス多数運行。八戸中心街まで所要時間約30分。

自家用車（八戸南IC下車3分）

- 八戸駅～八戸工業大学 約30分
- 本八戸駅～八戸工業大学 約20分

飛行機

- 羽田～三沢 1時間15分
 - 札幌丘珠～三沢 1時間
 - 伊丹～三沢 1時間30分
- ※三沢空港から八戸中心街までは空港連絡バスをご利用ください。

フェリー（最短乗船時間）

- 苫小牧～八戸港 7時間30分
- ※八戸港からJR本八戸駅までの交通手段は、シルバーフェリー・ホームページ 等でご確認ください。

○学生納付金

項 目	総合情報学部／先進工学部／デザイン工学部
入学検定料	30,000円
入学金	250,000円
学費（授業料等）	1,272,000円
委託費（保護者後援会費等）	21,000円
初年度納付金	1,543,000円
2年次以降納付金（学費、委託費）	1,328,000円

※納付金は予定金額のため、変更となる可能性があります。

○同系統の学びのある大学・学部・学科・課程

- 東北学院大学
工 学 部／機械知能工学科・電気電子工学科・環境建設工学科
- 東北工業大学
工 学 部／電気電子工学課程・情報通信工学課程・都市工学課程・環境応用化学課程
建 築 学 部／建築学科
ライフデザイン学部／産業デザイン学科・生活デザイン学科・経営デザイン学科



HIT

HACHINOHE INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2027.4 UPDATE!

2027年4月、八戸工業大学は3学部3学科へ※

本学では、現在の2学部2学科5コースから、3学部3学科体制へのアップデートを構想しています。本学のビジョンである「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、これからの社会に求められるグリーン分野とデジタル分野を強化した新たな学部・学科へ再構築。さらに、社会課題解決に必須な「デザイン思考」の習得にも力を入れ、文系・理系といった既存の考え方にとらわれることなく、この国の、この地球の「ミライを創る力」を持った人材を養成します。

※2027年4月開設予定 | 設置構想中 | 設置計画は予定であり、変更する場合があります

ミライをつくる知性を学ぶ

総合情報学部

〔総合情報学科〕

（定員100名）



育成をめざす人材像

情報科学やメディア情報等の幅広いデジタル技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる人材を養成します。

ミライを変える技術を学ぶ

先進工学部

〔先進工学科〕

（定員100名）



育成をめざす人材像

情報リテラシーも含めた科学と工学分野におけるグリーン技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、持続可能なグリーン社会の実現のためにグリーンIT・グリーンデバイスといった先進技術の導入と運用を推進していく人材を養成します。

ミライを描くセンスを学ぶ

デザイン工学部

〔デザイン工学科〕

（定員100名）



育成をめざす人材像

地域づくり分野におけるデザイン活動の基礎となる知識と技術、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、地域の暮らしの豊かさと多様なあるべき姿を構想する力を有し、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成します。

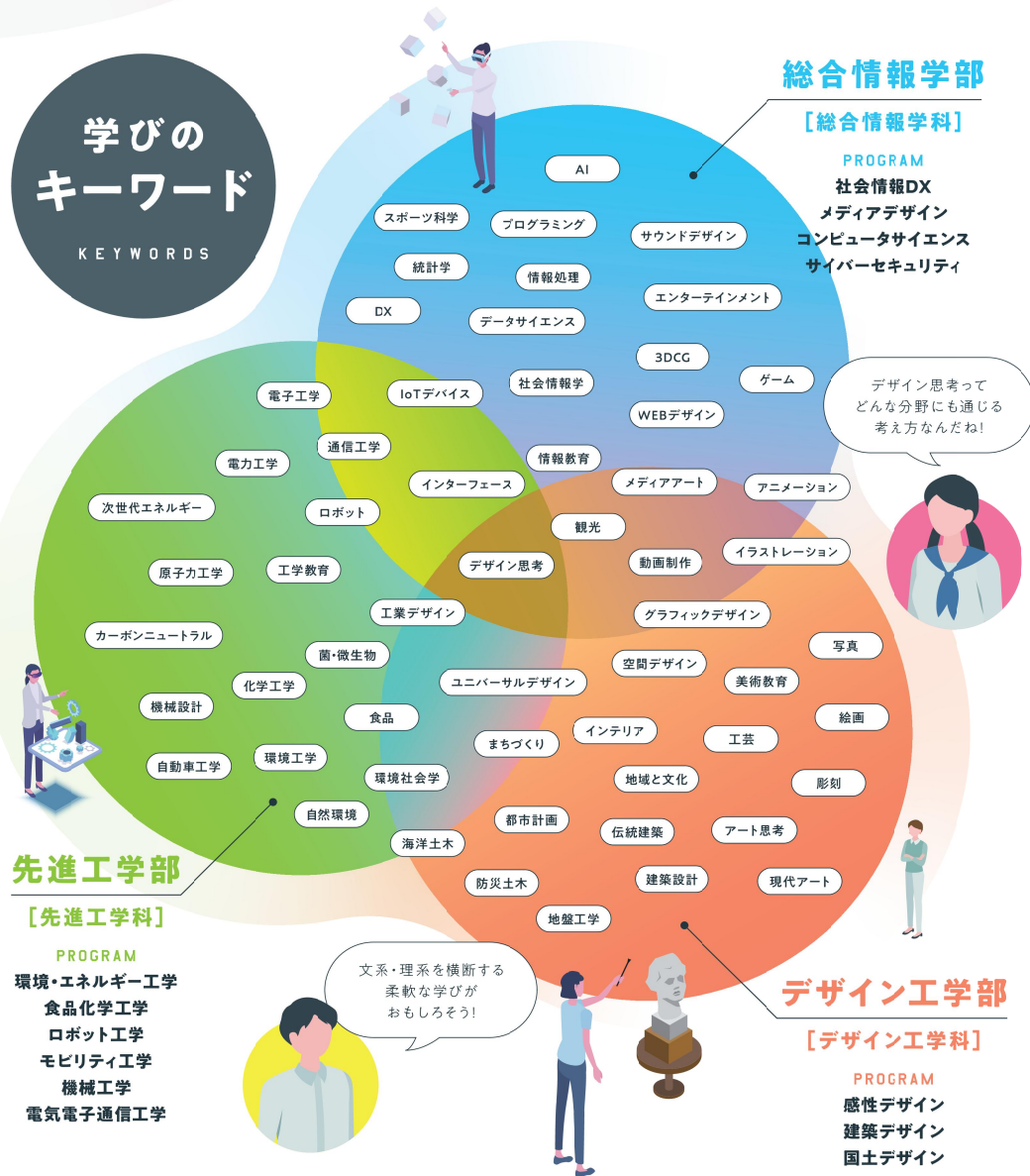


#シンHIT #文理YouGo! #green_digital_design

さあ、どんなミライへ進もうか？

学びの キーワード

KEYWORDS



新学部・学科の 将来像

FUTURE

